

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。

プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0/A ¥ 1 8 9 0/B ¥ 2 0 9 0/C ¥ 2 2 5 0/D ¥ 2 4 9 0}

(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

www.tambourine-japan.com email: song@tambourine-japan.com

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

Fairport(P16) England(P26)

[DVD/UK] NTSC all regions

※国内製 DVDプレーヤーで再生可能

- *ALLAN TAYLOR:The Endless Highway ¥2680
(DVD&ブルーレイ・ディスクの二枚組セット。ジャック・ケルアックの本をポケットに入れ、旅するフォーク・シンガーの道を歩み始めた Allan Taylor の自叙伝的ドキュメンタリー・フィルム。Dick Gaughan とのデュエット映像など、彼のフォーク・シンガーとしての歩みと音楽の背景がよく理解出来る内容。映像が彼の唄の世界のように美しい。約 1 時間 10 分。2009 作。Stockfish)
- *ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES ¥1500
:Live At Stazione Birra, Rome
(Albert Lee&Hogan's Heroes のローマでの約 2 時間の白熱のライヴ。70 年代の Albert Lee のスタイル{カントリー・ロック}そのまま。全 25 曲。112 分。2009 作。Heroic)
- *ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES:Live In Paris ¥1500
(2003 年パリでの約 2 時間のライヴ。どっぷり 70 年代スタイルのカントリー・ロック ~ 南部ロックのアメリカン・ロックの世界。全 22 曲。102 分。Heroic)
- *JOE COCKER:In Concert A
(81 年の白熱のコンサート・ライヴ。“Feelin' Alright”, “A Whiter Shade Of Pale”, “Watching The River Flow”, “Delta Lady”, “You Are So Beautiful”, “With A Little Help From My Friends”他 Joe Cocker の十八番アルバム・レートの 13 曲。スウィーな南部ロックも最高。2003 作。トイ Alpha Centauri)
- *MEIC STEVENS:An Evening With Meic Stevens C
(2007 年 7 月、ロンドンでのライヴ。デビュー時は「ウェルズ」のホブ・テイランと呼ばれたこともあった Meic だが、今は齢を重ねた Randy Newman のようないぶし銀の味わいを醸し出している。SSW の中の SSW を実感させる全 15 曲収録のライヴ映像だ。2008 作。Sunbeam)
- *ERIC CLAPTON:Music In Review A
(Yardbirds や Cream 時代そしてソロになってからの希少映像を挟みながら Jack Bruce や “Cream” の著者 Chris Welch 等が E. Clapton を語るドキュメンタリー-DVD。“Layra”, “I Shot The Sheriff”, “Sunshine Of Your Love”, “Crossroads”, “It's Too late”, “Wonderful Tonight” and more. 61 分。Sandbeach)
- *VAN MORRISON:Under Review 1964-1974 A
(様々なライヴ映像を含む貴重映像と写真を挟みながら彼の音楽変遷をアルバムごとに詳細に紹介するドキュメンタリー-DVD。112 分。2008 作。Sexy Intellectual)
- *LINDISFARNE:Classic Rock Legends B

(Lindisfarne の白熱ライブ。“Lady Eleanor”, “Meet Me On The Corner”, “Roll On That Day”, “Everything Changes” 等等など 11 曲。80 分。2001 作。Carlton International Media)

[CD/UK, IRELAND]

(FOLK, SSW, ROCK)

*WIZZ JONES, PETE BERRYMAN & SIMEON JONES

:Come What May

B

(おそらく W. Jones {ヴォーカル、ギター} が P Berryman {ヴォーカル、ギター} と S. Jones {サクソ、フルート、ヴォーカル} を誘って制作された「真夏の夜の夢」のような W. Jones 流ブリティッシュ・フォーク。ボーナス曲三曲を含めた全 14 曲の内、P Berryman がヴォーカルの主導権を取るの三曲のみ。しかし P Berryman の唄はすこぶる穏やかで、W. Jones の浮遊する音楽にとけ込んで聞こえる。その内の一曲 {タイトル曲で娘への手紙を唄にした曲} は SSW の Anne Sumner とのデュエットで、泣けるほど心優しい曲。聞き物ばかりだが、W. Jones 色に彩られた Bert Jansch 作 “Moonshine” の曲解説には「Simeon Jones が 9 歳のときに Bert Jansch から木製フルートをプレゼントされたのがきっかけで、フルート人生が始まった。Simeon の息子の Alfie Jones が Bert の曲を演奏しているのを聴いて、Alfie を説得してギターを弾いてもらった」と。W. Jones の “Right Now” を初めて聴いてから 45 年。今なおあの頃味わった音楽と似た感動が味わえるとは！Riverboat)

*THE UNTHANKS: The Songs And Poems Of Molly Drake

B

(Rachel & Becky Unthank の Unthanks の新作は、Nick Drake のお母さんの Molly Drake の自作の唄をソロやデュエットし、数編の詩を Nick Drake の姉さんで女優の Gabrielle Drake が朗読したアルバム。母親の Molly 自身が SSW だったことも驚きだったが、Adrian McNally の響きの良い伴奏でひと言ひと言丁寧にうたう Rachel & Becky のか細い唄は、Molly Drake の繊細で優しい唄の世界そのままに、そよ風になびくカーテンのような爽やかさと優しさが感じられて、うっとり。気のせいかもしれないが、どこことなく Nick Drake のムードを感じるような…。Rachel & Becky の良い意味で魂が抜けたような無気力な唄が、独特な世界を創り出していて、優しく心を奪う。2017 作。RabbieRouser)

*LUKE TUCHSCHERER: Always Be True

B

(英国発米国ルーツロック & SSW の良盤を世に送り続けるレコード会社 Clubhouse から発売された SSW の L. Tuchscherer の本作は、出来過ぎなくらい理想のルーツロック系 SSW アルバム。Luke には失礼だが、唄なしの「カラオケ」だけでも、どっしりして旨みたっぷりなルーツロックの「音」を創作していて、「音」で気分が高鳴り、「音」にバッチリな Luke の土臭く肌触りのよいヴォーカルに気分が落ち着く。ドラムス、ベース、エレキギター、オルガンの各音がクリアーでメリハリがあって、なにやら 70 年代のカントリー・ロックのように体に心地よく、録音時のバンド・メンバーの B. J. Cole のスティール・ギター {ドブロも少々} が、これまた最高！贅

沢な一枚。2017 作。Clubhouse)

*ANNE RYNNE: Anne Rynne

B

(Christy Moore の妹さんで、Luka Bloom の姉さんの Anne Rynne の初ソロ・アルバム。プロデュースは Luka Bloom で、ギターとヴォーカルで共演する。Anne は Neil Young や Jackie Oates や Eddi Reader や Gillian Welch などのフォーク/S S W系の歌に自身の思いや思い出を託して、ギターの弾き語り、丁寧で誠実にうたい通す。黒づくめのジャケットの印象と相まって、美しいギターの響きとともに聞こえてくる温かな Anne の唄たちは深い闇の中から聞こえてくるかのよう。唄の素朴な美しさに心惹かれてしまう今どき珍しい珠玉の逸品だ。本作は、Anne のご主人の Davoc Rynne と夫妻の子ども達や孫達などに捧げられている。2016 作。Big Sky)

*I DRAW SLOW: Turn Your Face To The Sun

A

(I Draw Slow は、アイルランドのダブリンを拠点に活動する米国ルーツ志向の一姫四太郎のフォーク・グループ。Chieftains や Van Morrison のレコーディングを手がけた Brian Masterson を共同プロデューサーに迎えて制作された本作は、Dave&Louise Holden 兄妹のヴォーカル&ハーモニーは、Gillian Welch&Dave Rawlings 風だったり、Louise のヴォーカルは Gay&Terry Woods の Gay Woods の Gay Woods に似ていて、よく似た陰影感があって、オールド・スタイルのアイリッシュ&アメリカン・フォーク風なオリジナルな音楽を創作していて、唄も音楽も軽やかだが、奥が深く味わいも深い。2017 作。Compass)

*JENNIFER CROOK: Carnforth Station

A

(ハープ奏者で SSW の Jennifer Crook の三枚目。旅の思い出など、Jennifer が紡ぎ出す音楽は自然な抑揚があって、詩情豊か。声自体が美しく魅力的だが、うたう詩のリズムから発生するメロディに彼女の情感が乗り移った印象で、夢の中で唄の旅をする気分。Jennifer {ヴォーカル、ハープ 他} に Eliza Carthy Band の Beth Porter {チェロ、フィドル、ハーモニー・ヴォーカル}、Jackie Oates Band の Mike Cosgrave {ギター、アコ、ハーモニー・ヴォーカル} のトリオ編成。ピカー。2014 作。Long Tale)

*NED ROBERTS: Outside My Mind

B

(1970 年代の SSW 風ジャケット・デザインと LP ジャケットのようなジャケットの紙質、中身は 1970 年代の陰りの感じられる英国 SSW っぽいヴォーカルとサウンド。録音は米国のロスで、Ned のギターの弾き語りベースだが、音が 1970 年代初期の米国ロックを志向した心あるブリティッシュ・フォーク~ロックの匂いをほのかに立てていて、ニンマリ。主に愛や希望をひっそりとうたう Ned の唄は、何とも心優しい。希有な SSW アルバム。2017 作。Aveline)

*WINTER MOUNTAIN: I Swear I Flew

B

(Winter Mountain 名義の本作は、英国コーンウォールの SSW の Joe Francis のソロ。Winter Mountain は二人組時代の名らしい。ソロだが、Seth Lakeman とのデュオを要にした音楽は、「一人イーグルス」の印象を持つ足腰のしっかりしたフォーク・ロックで、

心をワクワクさせる。Bruce Springsteen や Neil Young の影響を受けたそうだが、実際に聴く Joe の唄は、端正で、朝日に向かってまっしぐらな感じだ。アコースティック&エレキギターもスティール・ギターもドラムスも前向きな輝きがあって、気分もシャンとする。2016 作。Astral Foc)

*JACK HARRIS:The Wide Afternoon B

(よくありそうな名前の SSW の、よくありそうなヴォーカルの唄にすっかり釘付け。そのよくありそうなヴォーカルだが、Jack Harris なる SSW の唄への没入度と唄の表現力は並外れているし、自身の卓越したギターを要にした伴奏は、Jack の心動かす唄と連動して、豊かな表現力で魅せる。SSW アルバムとして完璧。ほめちぎっても足りない。Jack は 2005 年に 19 歳のときに米国テキサスで開かれている Kerrville Folk Festival に出場し、英国人初の優勝者に輝いている。2017 作。Rootbeat)

*GOAT ROPER RODEO BAND:Cosmic Country Blue B

(このウエールズの三人組の Gram Parsons 風カントリー・ロックの何と胸キュンなこと！メンバーは Tomas Davies {ダブルベース、ヴォーカル}、Jim Davies {リード・ギター、ヴォーカル}、Sam Roberts {リズム・ギター、ヴォーカル}。誰がリード・ヴォーカルかわからないが、G. Parsons のヴォーカルの甘み濃くして、フレンドリーな親しみやすさを濃くしたような心ほんわかになる、個人的に理想のカントリー・ロック。2016 作。Aveline)

*ALI MAAS & MICKY MOODY:Black & Chrome B

(とびっきり本醸造なルーツロックと遭遇。女性シンガーの Ali は、百戦錬磨の上のゆとり感の渋みとコシと伸びのあるヴォーカルで圧巻だし、相方の Micky は、SSW 系名盤“Young&Moody”の片割れで、Juicy Lucy、Whitesnake の Micky Moody で、つぼを得たスライド&エレキギターと二流センスのヴォーカルは、年季が入って圧巻。二人のロックは、まるで 1970 年代の英国のブリティッシュ・ロック〜パブロック辺りで止まったままのような真に米国ルーツロック志向のブリティッシュ・ロック。その純粋な志向性が自ずと音楽を豊かにし、味わい深いものになっている。2016 作。Armadillo)

*RALPH McTELL & WIZZ JONES>About Time A

(本作は 50 年前に Ralph McTell が Wizz Jones の招待を受けて共演したのを記念して、今度は Ralph McTell が Wizz Jones を招待して実現した二人の初共演盤。50 年前の共演の経緯を二人が書いているけど、お二人とも 50 年も前のことをよく覚えていますね！お二人とも心は、Woody Guthrie などのアメリカン・フォークやブルースのコピーや、そしてフォーク・ギターの修練に夢中だった時代にすっかりタイムスリップ。二人の阿吽の息は見事で、もう何十年もデュオとして活動してきたかのように、ヴォーカル・ハーモニーも、ギター演奏も決まっている。2016 作。Leola)

*TONY REIDY:Round Tower Blues B

(世の中可笑しなおっさん SSW がいるもんだ。バンジヨー、マンドリン、ギターを取っ替え引き替え、時に多重録音をしてうたう、この

Tony のうたは何ともほっこり。Michael Hurley に似た雰囲気もあることはあるが、このおっさん Tony は物言わぬものに語りかけるように波静かで穏やかで、その眼差しは優しい。唄は飄々感はあるものの Johnny Duhan のような唄の響きだから、唄それ自体が心地よい。2015 作。Tony Reidy)

- *MICHAEL WESTON KING: Live... In Dinky Town A
(何とも物悲しい響きのギターの弾き語りライブ。Tim Hardin の名盤 "The Homecoming Concert" くらい身にしみる。2002 作。Twah!)
- *KRIS DREVER: Black Water & Live A
(リマスター・デラックス版。二枚組。2012 作。Reveal)
- *PAUL MILLNS: Unsung Heroes B
(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム。1998 作。April Music))
- *MARY HAMPTON: My Mother's Children B
(Vashti Bunyan 等 1970 年代のブリティッシュ・フォークの香りのるちょっと不思議な雰囲気の女性 SSW。夢の世界をか細い、少し震える声でうたう。自身のギターやピアノを中心にした鳥のさえずりなども取り込んだサウンドで、「壊れやすさ」で完璧。2008 作。Navigator)
- *SAFFRON SUMMERFIELD: The Stonemason's Dream A
(地震で発見。英国のカントリーサイドの穏やかさが感じられる Saffron のたおやかなギター [1972 年製 Guild D35] の弾き語り。Robert Jarvis のトロンボーンがのどかさを運ぶ。アイルランドの伝統曲 "The Dawning Of The Day" のメロディを拝借した "On Raglan Road" 他全 9 曲。のほほーん。2002 作。Mother Earth Music)
- *ELLE OSBORNE: It's Not Your Gold Shall Me Entice A
(本作が三枚目の英国の女性 SSW の Elle の新作。彼女の音楽資質は Shirley Collins や Lal Waterson などの英国フォーク/トラッド。面白いことに共演者は Alan Roberts の息子でフォーク・シンガーの Alasdair Roberts やスコットランドのフォーク・ロック・バンドの Trembling Bells の Mike Hastings と Alex Neilson 等のスコットランド勢。そんな組み合わせで生まれた本作は、今日の錬磨された英国トラッドとは一線を画した 60 年代後半から 70 年代初期のブリティッシュ・フォークの肌触りを感じさせる粗いフォーク。2015 作。9th House)
- *HUW M: Gathering Dusk B
(ウェールズの業者のカタログを見ていて、偶然に目に留まった、まるで 70 年代の夢見る SSW のような、同じウェールズの Meic Stevens の唄にも通じるような魅力的なアルバム。彼の唄の世界は夢うつな世界。朝日の中で、夕日の中で、その心地よい時間の流れを楽しむかのような穏やかで美しい唄の数々。自身が爪弾くギターをはじめ、アコースティックなサウンドも彼の唄の色に彩られている。Bethan Reynolds とのハーモニーと共に夢の世界へ。朝、目覚める頃、夢うつなまどろみの中で聴きたい。発売年は 2011 年。Gwymon)
- *JAKE WALTON: Silver Muse B

(新曲に過去の曲を加えて新録した本作は、“The Gloaming Grey”を包んでいた英国的愁い{その愁いはケルトの神話への愛着や故郷コーンウォールへの想いに発する愁いなのだが}が、同じように感じられるアルバムとして美しく結実。Jake 自身、自分の歩みを振り返りつつ、同時に改めて自身の音楽のルーツを確認し、新たな気持ちで音楽する快さに充ちている。伴奏は Jake のギター、ダルシマー、ハーディ・ガーディと Eric Liorzou のマンドーラ、ギターの二人の演奏を軸にしている、そのアコースティックな響きが、本作の新鮮さを高めている。全 15 トラック。2015 作。Celtic Monkey)

*LIAM MERRIMAN & EOIN O' MEACHAIR: The Birds Never Cease C
(Liam Merriman はアイルランドのウォーターフォードのヴェテラン SSW だが、近年はナッシュビルをも拠点にレコーディングと演奏活動をしていて、本作は同郷の Eoin O' Meachair {ハヅォー、マンドリン、ギタール} をパートナーに迎えて、ナッシュビルで録音したもの。本作は男性 SSW タイプの音楽だが、結構胸キュンになる。Liam 自身は Christy Moore や Christie Hennessy 等のアイリッシュ・シンガーが描いてきた世界や風景を意識して制作したそうだが、聞こえてくる音楽は、夢の世界をうきうきと旅してまわるような心の自由さと優しさが感じられ、気分清々しい。野原でうたう「唄のおじさん」的な Liam の優しいうたも心惹かれるし、隠し味的に盛り込まれたアイリッシュな爽やかなサウンドが、朝、野原を散歩するように気持ち良い。2015 作。Three Rivers)

*CATHERINE HOWE: Because It Would Be Beautiful B
(かつて 1970 年代、ブリティッシュ・フォーク界の歌姫だった Catherine Howe の新作。Vo Fletcher {ギター}, Ric Sanders {ヴァイオリン}, Michael Gregory {ドラムス} がバックを務めていて、Vo Fletcher のミステリアスなギターをフィーチャーした弾き語りのフォークとバンド形式のフォーク・ロックとが混在したスタイルを取っている。Catherine 様を中心に同窓会的雰囲気楽しい。2015 作。Talking Elephant)

*ALISTAIR OGILVY: July Moon C
(スコットランドの SSW として大物の器の Alstair の 2014 作。Alstair の唄は歌唱力に相応しく雄大。しかも雄大であり、かつ繊細。スコットランド風の叙情も感じられる。根っこの部分に、Runrig のようなスコットランド魂が感じられる。ゲスト: Karen Matheson。2014 作。July Moon)

*LESLEY CURTIS: Looking For The Girl A
(女性 SSW の Lesley Curtis の信じられないほど美味なアメリカなロック。エレキギター、スティールギター、トブロー、マンドリン、オルガン、ベース、ドラムス等の楽器編成のロックは、1970 年代の頃あたりの爽やかなカントリー・ロック風で、Lesley の唄は爽やかに輝いている。ある意味時代遅れのアツクなカントリーロック風サウンドだが、たつぷりと自分の好みのサウンドに充ちたサウンドの中でうたう Lesley の唄は清々しくて何とも心地よい。2015 作。Curly Lettuce Production)

*JASON STEEL: Fire Begot Ash A

- (70年代SSWファン、ブリティッシュ・フォーク・ファンはニンマリ
の一枚。ギター、或いはバンジョーを爪弾きうたうJ. Steelの音楽
は、Michael Hurlley風の気楽さと英国の田舎っぽさとBert&John
風ギター等が混ざり合った心地よい音楽。最愛聴盤。Rif Mountain)
- *STEVIE PALMER:Heartprint Shadow A
(イアン・マッシューズを想起させるヴォーカルと曲によってはヘロ
ンを想起させる牧歌&夢想フォーク・サウンドは心穏やか。夢想的
で信じられないほど歌詞が詩的で心優しい唄ばかり。w. Mary
MacMaster, Steven Polart, Kim Edgar, Wendy Wetherby, Allan
Knox。2010作。Greentrax)
- *MARY JANE:Tacit A
(70年代ブリティッシュ・フォークの麗しさを追い求めるMary Janeの3枚目は
ライブ・セッション。Fairport, Steeleye, Trader Horn, Treesのライブが
お好みの方は必聴。“Matty Globes”そっくりな“Lady Margaret”,
“She Moved thro’ the Fair”, “Blackwaterside”ほか全13曲。2000
作。Seventh Wave)
- *THE STEPPES:Drop Of The Creature a
(アイルッシュ・アメリカ人によるフォーク・ロック・バンド。70年代サイケ・ロックとブリティッシュ・
フォークとが出会ったようなミステリアスなロック。70年代趣味丸出し。97作。
Delerium)
- *STONE ANGEL:East Of The Sun B
(Stone Angelの素晴らしいNew。理想のブリティッシュ・フォーク&トラッド。
2001作。Kissing Spell)
- *VASHTI BUNYAN:Lookaftering A
(二枚目。薄型ジュエル・ケース仕様のサンプル盤。2005年。Fat Cat)
- *SUSAN McKEOWN:Belong C
(アイルランド人女性シンガーのSusan McKeownの2014年作。本作はこれま
でのアルバムの中で異色。Maria Muldaurのようなノスタルジック・ムードの
声が裏返る唄やクラブ・風安酒場っぽい唄など、ひと味違う。大人
の女性ムードの魅惑のSSWアルバムなのだ。2014作。East River Music)
- *JOHN MARTYN:No Little Boy ¥1000
(w. Levon Helm, Gerry Conway, Spencer Cozens, Dave Gilmour,
Phil Collins, Alan Thompson, etc. 1993作。Parmanent)
- *THE HENRY McCULLOUGH BAND:FBI Live D
(2007作。Mundell Music)
- *STEVE TILSTON:The Reckoning B
(ブリティッシュ・フォーク・ギター奏者として、かつシンガーとして大活躍の
Steveの本作は全て自作曲。気高く繊細で、かつ気品のあるギターの
響きと切りっとして穏やかな唄は愛おしいほど美味。英国フォークの名
盤。2011作。Hubris)
- *ELLIOTT MURPHY・IAIN MATTHEWS:La Terre Commune A
(異色のデュオ。それぞれのソノの持ち味とデュエットがバランスよく収められ
た友情盤。2001作。ドイツBlue Rose)
- *LUCY WARD:Single Flame B
(若き女性SSWのLucy Wardは、2012年、BBCのフォーク部門で「新人賞」に
当たる“Horizon Award”を授賞。本作は二枚目。Lucyが作る唄は独

特だ。英国の昔話、特に不気味な話や不思議な話が好きで、そんな世界を自分で創作して唄にした感じで、音楽が彼女の世界、宇宙として結実している。トラッド曲が二曲ある。その内の一曲「神様、私は嵐の中で死にたくありません」(船津訳)は、June Tabor のトラッド的世界にどきっとさせられもする。Produced by Stu Hanna。2013 作。Navigator)

*SONNY CONDELL:Swallows And Farms A
(Tir Na nÓg [ティル・ナ・ノグ] の Sonny Condell のギター弾き語りの 2013 年作。唄も緑の楽園に住む吟遊詩人っぽくて、70 年代の夢見るブリティッシュ・フォーク・シンガーの花畑～田園の夢世界ムートにほんわかと包まれていて、信じられないほどふわふわな音楽。彼の気ままに吹く風のようなふわふわな唄とクリスタルな輝きを放つ彼の独特なアコースティック・ギターのサウンドが織り成す最高に極楽な自閉的 SSW 音楽の世界だ。2013 作。Irish World Music)

*CEDARS:Little Copper Still A
(Cedars は紅一点の女性シンガーの Chantal Hill がヴォーカルの英国のルーツ・ロック・バンド。彼らのルーツ・ロックはかなり本醸造。Chantal のヴォーカルは古いブルース・シンガーやホピュラー・シンガーの妖艶さを放ち、それでいて現代のフォーク・シンガー風でもあって、熱いスライド・ギターやハンジヨの演奏はストレートにロック化して、熱い。ルーツの匂いがたっぶり。2013 作。Clubhouse)

*JOE COCKER:Fire It Up ¥2690
(CD+DVDセット。DVD は PAL 方式。久し振りに聴く Joe Cocker は、この 40 年あまり、結局南部ロックにとりつかれら音楽人生だった、ということ。同じ釜の飯を食った仲間達の多くが、音楽的にも、実際にも第一線から身を引いていった中で、Joe はしぶとく南部ロックを第一線で演じてきた。アルバム・タイトルが示すように、特に本作が「熱く」演じたアルバムなのかも知れないが、70 年代初めの Mad Dogs&Englishmen 時代となら変わらぬ入魂の唄と南部フィーリング溢れるロックにすっかり骨抜きになる。8 曲目“You Don't Know What You're Doing To Me”は“You Are So Beautiful”を想起させるソウルフルな美しい曲。DVD は CD 収録曲の中から 6 曲のライブが挿れる。2012 作。ドイツ Sony)

*ALASDAIR ROBERTS:Farewell Sorrow B
(Andy Roberts の息子でスコットランドの SSW の Alasdair の孤独感漂うやる気のないヴォーカルと伝承歌的夢物語の世界で遊ぶ独り言的唄達は何とも不思議な世界へと誘う。2003 作。Rough Trade)

*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow B
(Naomi はまるで英国の Emmylou Harris。今の Emmylou ではなく、70 年代の Naomi の声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011 作。Dusty Willow)

*KEITH CHRISTMAS:Live At The Pump A
(齢を重ねたヴァン・ヘッレン SSW の K. Christmas のギター弾き語りライブ。全 18 曲。約 40 年の隔たりで聴く K. Christmas の唄はアメリカのヴァン・ヘッレン SSW 達、例えば Michael Murphey や John Prine のようなヴァン・ヘッレン SSW のギター弾き

語りライブを聴く感触。2012 作。BECN)

- *JAMES GRANT: Strange Flowers C
(Scott Walker や John Martin を想わずソウルフルかつミステリアスなヴォーカルは静かに闇が迫るように圧倒的な Great な SSW アルバム。w. Karen Matheson, Donald Shaw, James MacKintosh, etc. 2009 作。Vertical)
- *DUNCAN McCRONE: Colourblind B
(70 年代からスコットランドのフォーク・シーンで活動してきたヴェテラン SSW, D. McCrone のソロ。D. McCrone の本作は、総じて穏やかだが、ストーリー・テラー風フォーク・シンガー・スタイルで、内省的なテクニシャンが感じられる唄とリテンティブ・ソングスタイルのブリティッシュ・フォークの香りのする牧歌的で郷愁をそそる唄が混在し、どこか懐かしい気分させられる。w. Ray Laidlow, Steve Lawrence, Chris Stout, Finlay Macdonald, etc. 2012 作。Circular)
- *EDDIE MARTIN: Folk & Blues a
(「アメリカ」で取り上げたい渾身のブルース・アルバム {ブルース・アルバム の妙技も素晴らしい} を吹き、ギター&ホーン・セクションの弾き語りブルース・アルバム。伴奏の妖精物語 "Kind Lady Moon" {男が悪魔にさらわれる物語} さえ、Eddie の手にかかるとゴトゴトのブルースに変幻する。ここまでブルースを自分のものとし、操れるブルース・シンガーはそうはいない。J. J. Cale や Eric Clapton のファンにお薦め。2010 作。Blue Blood)
- *LAURA MARLING: A Creature I Don't Know B
(本作は昨年 9 月に発売された同名タイトルのアルバムに 16トラック収録ライブ CD "Live From Yorkminster" をセットにした 2 枚組限定盤。Laura の音楽性はフォーク、カントリー、ロック、ジャズ等様々な音楽性が散りばめられ、多彩だが、弾き語りを基本にしていて、ソングライティングや感性の部分で、Joni Mitchell の影響が感じられ、加えて Leonard Cohen や Neil Young を想起させる部分もあったりで中々魅力的。プロデュースは Glyn Johns の息子の Ethan Johns。2012 作。Virgin)
- *ELEANOR McEVOY: Alone B
(アイルランドの SSW の E. McEvoy の 9 枚目の本作は、アコースティック・ギター、或いはピアノ、或いはエレキギター、或いはベースギターを一曲一曲持ち替え、弾き語りであつたもの。タイトル通りの Eleanor 独りぼっちの世界の唄ばかり。2011 作。Moscodisc)
- *JOHN SPILLANE: A Rock To Cling To C
(欧米の SSW の中でも屈指の SSW の John Spillane の唄が始まるや、いつも John Spillane 一色。いつものことながら、うたい方は知性的で、一見穏やかで静かだが、発せられたうたそのものは熱く、言葉の力、詩の力を思い知らされる。天下一品。w. Pauline Scanlon, Donogh Hennessy, Brendan O' Sullivan, etc. 2011 作。EMI)
- *CANDICE NIGHTS: Reflections A
(Ritchie Blackmore の奥さんの Candice の優麗なソロ。すべての人が夢の中。2011 作。Minstrel Hall Music)
- *FREDDIE WHITE: Close To You B
(一枚発見。1991 年作。EMI)
- *EMMA TRICCA: Gypsies And Red Chairs a
(イタリア人女性シンガーによる夢想的ブリティッシュ・フォーク。Suffron Summerfield, Davey Graham 推薦。2001 作。Fairylands)

- *MASTER OF CRAFTSMEN C
 (一枚発見。Bert Jansch, Simon Nicol, Vikki Clayton, Dave Pegg, Dave Mattacks, Chris Leslie, G. Giltrap, etc. 99 作。Terra Nova)
- *GREGSON & COLLISTER: Love Is A Strange Hotel ¥2718
 (国内盤。1991 作。キング)
- *REDLANDS PALOMINO COMPANY: Don't Fade A
 (全国のカントリー・ロック・ファンに絶対のお薦め。紅一点のシンガー、Hannah Elton-Wall を擁する彼ら{もう一人のヴォーカルの Alex Elton-Wall とほぼ交互にリード・ヴォーカルを取り、ハーモニーする}のカントリー・ロックは、Kennedys くらい 70 年代米国西海岸カントリー・ロックの夢見心地な旨みをたっぷり持った胸キュンのカントリー・ロック。2011 作。Clubhouse)
- *GERRY O' BEIRNE & ROSIE SHIPLAY B
 :Yesterday I Saw The Earth Beautiful
 (元 Patrick Street で SSW で名ギター奏者の Gerry O'Beirne の本作は Rosie Shiplay なる無名の女性フィドル奏者 Rosie とのデュオ・アルバム。デリケートな感受性に富む G. O'Beirne の唄とギターは個人的に思い入れがあるが、本作でも彼らしい美しく細やかなギター演奏による心痺れる唄に惹き込まれる。2010 作。Shipwhistle)
- *CAVIL: Mares' Tails B
 (何とものどかな幸せ気分になれる唄たちだ。ヴォーカルの雰囲気が一見、Nick Drake 風だが、Nick のような神経質的な面は皆無。ジャケットの写真ではないが、麦畑に心地よく吹く風のような唄がギターやピアノやグロックenspiel などの夢のような音色に包まれてほわほわと流れる。こんな至福な唄の世界は久しぶり。申し訳ないが、コメント書くのを止めてぼーっと聴いていたくなった。2010 作。Folkwit)
- *CIARAN DORRIS: Home B
 (C. Dorris はベルファスト出身で現在スコットランドでケルト音楽ラジオの人気キャスターを務める SSW。Ciaran の唄はとても人なつっこい。アイルランドとスコットランドの二つの故郷を想う気持ちが綴られた Ciaran の唄は健やかで晴れやで、そして感傷的。アイルランドの叙情派 SSW の Ciaran Goss に似てるだろうか? w. Shona Mooney, Calum Stewart, Stuart Duncan, Gillian Duncan, Mary Kathleen Burke 他。2010 作。Greentrax)
- *KATH READE: Passionate Nature B
 (Kath Reade は Jez Lowe が主宰する Songwriter Cup の元保持者で、ランカシャー地方では名の知れたヴァン女性フォーク・シンガー。本作がデビュー作。Kath の唄は土地に根ざしたフォーク。と言ってもその土地の伝統歌をうたうのではなく、Kath 自身が土地の伝承や土地の人々の営みを自分の言葉でうたったもの。音楽性はむしろ 60 年代~70 年代のブリティッシュ・フォーク/SSW っぽい。2010 作。Splid)
- *DEMOLITION SKY: Demolition Sky B
 (Richard Durrant 主宰の Airport Club で 2001 年に出会い、デビューで活動する Alistair Mackie と Mark Collyer の二人組のデビュー作。二人ともがアコースティック・ギターを快く弾き、二人がハモる唄は清々しく美しい。イングランドの美しい風景を描写した唄など往年の爽やかでミラクル・ムードのブリティッシュ・フォークをホッパさせもする。Produced by Richard Durrant。2009 作。LongMan)

- *DAVID ROTHERAY: The Life Of Birds A
 (Beautiful South の創設メンバーの匿名義のアルバムで、曲目は David の自作曲或いは David と本アルバムでヴォーカルを取るシンガーとの共作曲なのだが、ヴォーカルを取るのは全てゲストのシンガー。そのシンガーは Eliza Carthy {2 曲}, Bella Hardy {3 曲}, Jim Causley {3 曲}, Kathryn Williams {1 曲}, Eleanor McEvoy {1 曲}, Alasdair Roberts {1 曲}, Julie Murphy {1 曲} 等。タイトルが示すように鳥の唄が中心だが、それだけでなく一曲一曲の唄がしっかりと、心に残る唄ばかり。2010 作。Proper)
- *AL STEWART WITH DAVE NACHMANOFF: Uncorked B
 (A. Stewart が古くからの音楽仲間でギター奏者の D. Nachmanoff と 2009 年に行った米国ツアーでのライブ。Al Stewart は今が最も旬かも。全 13 曲。2010 作。Wallaby Trails)
- *MEIC STEVENS: Love Songs B
 (ウェールズの Bob Dylan と言われた Meic が 18 歳だった 1959 年から 2009 年の間に作られた英語の「ラブ・ソング」集。全 13 曲。大半が未発表曲。いやはや初心回帰と言うか、Meic の唄は唄に誠実で優しい。本作はその昔、Bob Dylan に紹介してくれたという Fiona Fleming という女性に捧げられてる。2010 作。Sain)
- *MICHAEL WESTON KING C
 : I Didn't Raise My Boy To Be A Soldier
 (Bob Dylan 作の "I Pity The Poor Immigrant" と "Simple Songs Of Freedom" や Phil Ochs 作の "Cops Of The World" と "Is There Anybody Here?" や Paul Simon 作の "Homeward Bound" 等全 12 曲。2010 作。Valve)
- *LIZZIE NUNNERY: Company Of Ghosts A
 (2008 年 BBC ラジオの "Best Newcomer" 賞優勝の若き女性 SSW のファーストアルバム。Lizzie の唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる 2010 作。Fellside)
- *JENNA: Brother C
 (21 歳の女性 SSW の Jenna の二枚目。21 歳の娘らしい恋や失恋のほか見聞きし、体験したことを多感な感性でスケッチした青春物語が、ある時はギターの強いビートの利いた曲調で、ある時はピアノをフィーチャーした気持ちよく流れるような曲調で、ある時はタイトなフォーク・ロック調で自在に空を舞うようにうたう。若き、魅力溢れる女性 SSW だ。2009 作。Hands On Music)
- *ELBOW JANE: 3 Side Island B
 (リバプール郊外の風景や人の心は変わったが、希望と栄光は生きていこうとうたう男性 5 人組。5 人の内 3 人がヴォーカルを取るが、それぞれのヴォーカルが思索的で、アコースティックな音楽は穏やかで滋味溢れるもの。ヴォーカルとハーモニーから生まれる柔らかな緊張感は見事で、むしろ SSW アルバムとして質の高さを見せている。ブリティッシュ・フォークとして音楽の質が高い。2009 作。Fellside)
- *LUKA BLOOM: Riverside ¥1880
 (w. Liam O' Maonlai, Eileen Ivers, Conor Byrne, etc. 90 作。Reprise)

- *LUKA BLOOM: The Barry Moore Years B
 (Barry Moore が Luka Bloom と名前変える前のフィンガー・ピッキング・ギターの美しい弾き語り時代に発表した“Treaty Stone”{78 作}, “In Groningen”{80 年}, “No Heroes”{82 年}の初期 3 枚のアルバムからの 15 曲入編集 CD。70 年代ブリティッシュ・フォークの芳香薫る Barry Moore 時代の CD だ。2001 作。Luka Bloom)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Shadows & Half Light B
 (2010 年 BBC の“Horizon Award”入賞の Katriona {ヴォーカル、フィドル} & Jamie {ヴォーカル、ギター} の若き男女デュオ。作詞作曲は Jamie が主でヴォーカルも Jamie が主にリードを取り、Katriona はハーモニー役。Jamie の理知的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)
- *MIKE SILVER: How Many Rivers A
 (英国の叙情派 SSW と言えば Ralph McTell に Johnny Coppin そして Mike Silver。Mike の英国的叙情性豊か唄は最高潮。w. J. Coppin, R. McTell, Jo Partridge, Martyn Wyndham-Read, Phil Beer, Julie Silver, Roger Nichols, Mick Dolan, etc. 2008 作。Faymus)
- *JACK McNEILL & CHARLIE HEYS
 : Light Up All The Beacons B
 (Jack & Charlie のフレッシュなデビュー作。2008 作。Fellside)
- *CRUACHAN: Tuatha Na Gael C
 (アイルランドのフォーク・ロック・バンドの 95 年作に 97 年録音の 3 曲のボーナス曲を加えた再発盤。全 12 曲入。彼らの男女のヴォーカルを含め、夢想性と魔性を帯びたアイルランドのフォーク・ロックの醍醐味は物凄い。リアン・パイプスやホイッスルや小鳥の囀り等が彼らのエネルギッシュなフォーク・ロックに +α の魅力を注入している。ジャケットもブックレットも何から何まで、ケティックで神秘的。95/97 作。オランダ Karmageddon Media)
- *GINA LE FAUX: In My Life C
 (ほぼ Martin Simpson {トブロー、テレキャスター} と Andy Cutting {メロディオン} が全面バックアップする良質の女性 SSW アルバム。Gina のヴォーカルは Iain Matthews のような高音が伸びる男性 SSW のような声質とヴォーカルスタイルで、M. Simpson の味わいのあるトブローの伴奏で、心象風景や心模様をゆったりと唄にしたという感じで、一曲一曲が唄のスケッチのよう。2009 作。Le Faux Music)
- *SAM LEWIS: Everything You Are C
 (Sam はある種 J. J. Cale のような、何とも夢うつつな魅力的な SSW。ロック・バンドのギタリストで Neil Young のファンという Sam 自身が奏でるギターやラップ・スティール・ギターは感覚的で、緩くも星の輝きのような音色で目覚めの悪い唄にぴったしはまっている。このうとうとした感触は凄い魅力。一度聴くと病みつき。Bert Jansch とツア-をしたりもしているようだが、どんなコンサートなんだろう? 2007 作。Rusk)
- *THE SAW DOCTORS: Live At The Melody Tent B
 (アイルランドのフォーク・ロック・バンドの雄、Saw Doctors のライブ・アルバム。録音は 2008 年の夏。Runrig クラスの魂揺さぶるフォーク・ロックだ。凄い! 2008 作。Shamtown)
- *THE SAW DOCTORS: All The Way From Tuam (1992 作。Shamtown) B

- *THE SAW DOCTORS:Villains?(2001。Shamtown) B
- *ROARING JELLY:Golden Gates / MICHAEL HEBBERT
:The Rampin' Cat a
(イギリスのラグタイムやスキッフ、ジブシー音楽、古いジャズやポピュラー音楽そしてセピア色の愉快的唄のコミックバンド Roaring Jelly [Derek Pearce, Clive Harvey, Mick Hennessey] の76年のデビュー作とバンド・ミュージシャンでコンサティナ奏者の Michael Hebbert の76年のデビュー作の"2 on 1"。全22トラック。76/2008作。Free Reed)
- *DAVID LEWIS:Ghost Rhymes A
(Andwella の D. Lewis ではないもう一人の素晴らしい SSW の D. Lewis の2007作。本作も John Wesley Harding が全曲でまるでデュオのように付合っている。この David の英国人的感性が光る弱々しい感触が何とも言えず魅力。D. Lewis の陰影に富む唄そして細やかな音作りは本当に魅力的。男性 SSW だが SSWファンは皆胸キュン保証。2007作。WOW)
- *JIMME O' NEILL:Real C
(スコティッシュバンド "Silencers" のリーダーでヴォーカルの J. O' Neill のギター弾き語りを中心にしたファースト・アルバム。2008作。Keltia Musique)
- *CHRIS WHILE:Look At Me Now A
(ヴェテラン女性 SSW の Chris While の1994年のアルバム。1994作。Fat Cat)
- *CHRIS WHILE:Rosella Red A
(ヴェテラン女性 SSW の Chris While の2007年のアルバム。w. Kellie While, Gerry Conway, Joe Broughton, Neil Fairclough, etc. 2007作。Fat Cat)
- *MARTYN JOSEPH:Full Colour Black And White A
(5枚目。帰郷の喜びを全身で唄った軽快な1曲目 "Going Home" の門をくぐると、まるで自問自答するような Martyn の詩情溢れる唄の世界。録音は Michael Weston King の "God Shaped Hole" と同じ Martyn の家の屋根裏部屋スタジオ。SSWアルバムの原点。96作。Grapevine)
- *MARTYN JOSEPH:Far From Home A
(闇も中から響いてくるようなアコースティック・ギターのクリアな響きと共に Martyn の純な唄達が心に染みわたる絶句のアルバム。99作。Pipe)
- *STEVE ASHLEY:Time And Tide C
(S. Ashley の本作は英国的陰影に富む70年代ブリティッシュ・フォーク回帰の名品。w. Chris Leslie, Simon Nicol, Dave Pegg, Robin Williamson, Paul Manning, etc. 2007作。Topic)
- *XAVIER BARO:Flors De Joglaria ¥1500
(スペインのフォーク・シンガー。カタルーニャのフォーク・シンガーの X. Baro の本作は70年代ブリティッシュ・フォーク・スタイルのフォーク/フォーク・ロック。Xavier は夢の旅人のイメージでのトルバドールの的でエレキ&アコースティック・ギター、ベース、オルガン、ピアノによる甘味ある優美なフォーク/フォーク・ロック。教会風オルガンや甘みあるギター等が70年代風ブリティッシュ・フォークの夢見心地さを引き立たせ、Xavier の唄は仮想の夢のサウンドの中でゆったり舞う。スペインのシンガーによる耽美的ブリティッシュ・フォーク。2006作。Quadrant)
- *INCREDIBLE STRING BAND:Nebulous Nearnesses B
(Mike Heron, Clive Palmer, Lawson Dando, Fluff, Gavin Dickie,

Steini Gudmundsson というラインナップの 2005 年版 ISB。余計な贅肉が落ちて牧歌的で清々しくて微笑ましいブリティッシュ・フォーク。どことなく英国版 Woodstock Mountain Revue 的音楽。スピンQuadrant)

- *BERT JANSCH:Nicola A
(2曲ボーナス付。詳細解説付。67/2002 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Birthday Blues A
(2曲ボーナス付。詳細解説付。69/2001 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:The Ornament Tree(90 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:From The Outside A
(紛失曲“I Sure Wanna Know”を収録し、新たに CD 再発。93/2001 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Live At The 12 Bar(96 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:Crimson Moon(2000 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:The River Sessions B
(74 年 11 月グラスゴーの City Hall でのライヴ。74/2004 作。River)
- *BERT JANSCH:Dazzling Stranger A
(アンソロジー-20 曲入編集 2 枚組。2000 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Black Swan(2006 作。Drag City) A
- *JOAN ARMATRADING:Into The Blues B
(全て自作曲だが、ブルース色濃厚な Joan の本作はブルスマンのブルース魂が乗り移ったスピリットの高いブルース。活きの良いブルースが快感。2007 作。Hypertension)
- *ANDY WHITTLE:Old Fashioned Dream B
(ブリティッシュ・フォークの優等生!と言いたくなるノッティンガム出身の若干 24 歳の SSW の瑞々しいデビュー作。理想の SSW アルバム。2005 作。Folkwit)
- *SCOTT MATTHEWS:Passing Stranger B
(驚きの個性的な SSW だ。ピュアさと泥臭さとを併せ持ったというか、全体として Nick Drake 的ムードを漂わせていて、自己陶酔型なのだが、スライド・ギター等ギターの名手でもあって、泥臭いブルースの世界も覗かせていて奥が深い。2006 作。San Remo)
- *PLAINSONG:Dark Side Of The Room(92 作。トイLine) ¥1980
- *ROGER MORRIS:Light Up The Road ¥900
- *ROGER MORRIS:Beholder ¥900
(Roger Morris“First Album”のあの R. Morris の 2001 年作の 2 枚目と 2004 年作の 3 枚目)
- *DAVID HUGHES:I Can Explain B
(Jacqui McShee と Gerry Conway がほぼ全曲でバックアップの本作は彼独特な自己陶酔的暗鬱さと 70 年代風ブリティッシュ・フォークの陰影とが交差する中で、いつもながらの彼独特な世界が生み出されている。w. Bert Jansch, Helen Watson, Chris While, Julie Matthews, Martin Brunnsden。2004 作。Folkcorp)
- *JUDY DINNING:Fine Times D
(ノースハンプトン出身の Judy が故郷を唄ったもの。2003 作。MWM)
- *LEE COLLINSON:Breathless a
(ブリティッシュ・フォーク・ギタリストとしてかつ英国的センスが光る味のあるシンガーとして知る人ぞ知る Lee の 6 年振りアルバム。Martin Simpson の織

細&鮮烈ギターに独自のスタイルを加味したアコースティック・ギターの輝きとコクは、流石。釘づけ…。2000作。Chama)

- *GRAHAM LYLE:Something Beautiful Remains A
(ブリティッシュ・フォークの数々の名作を生み出した Gallagher&Lyle の Graham Lyle のソロ。ほろ酔い気分。2003作。トイ Hypertension)
- *JOHN LEO CARTER&CO.:Candyloss Girl C
(アイルランドのSSWだが、感性鋭いアコースティック・ギターの瞑想的響きと John の夢想的ヴォーカルは Nick Drake を想起させる。w. John Spillane, Mairead Kelly{ハープ、ヴォーカル}, Edel Sullivan{フイドル、ヴォー}, Thaddeus Buckley{ベース}, etc. 2003作。Circle)
- *JASON O' DRISCOLL:Dharma C
(Jason はアイルランドのフォークのSSWのようなのだが、たわいもない唄を素直に心優しくメロディアスに唄う。その素直さと浮遊感ある緩やかな唄が心地よい。2003作。Jason O' Driscoll)
- *MAGGIE HOLLAND:Circle Of Light B
(フォーク・シンガーの Maggie の唄ときっちり向き合った存在感あるフォーク・アルバム。全15曲。2003作。Irregular)
- *THE VARAFLAMES:Throwing Shapes B
(Nab Noakes, Rod Clements, Fraser Speirs, Pick Withers にバックアップ・ヴォーカルで Gill Bowman&Karina Polwart が加わった Varablames のおやし飲む懐古趣味ロック。2000作。Neon)
- *RAB NOAKES:Rarities + Demos Vol.1 C
(マルチメディア機能付 CD。70年作のデビュー作前の69年に家庭用レコーダーで録音していたテープからの全15曲。1曲1曲が磨かれる前の原石の輝き。CD-ROM は Rab の長いおしゃべり弾き語りビデオにフォト・ギャラリーほか。2002作。Neon)
- *LINDISFARNE:Promenade B
(何とも温かい心地になれる温かで懐かしい Lindisfarne の New。2002作。Park)
- *LINDISFARNE:The Cropredy Concert A
(94年の Cropredy のライブ。97作。Mooncrest)
- *LINDISFARNE:Buried Treasures Vol.3 A
(未発表曲集第3弾。17曲+α。2000作。Siren)
- *ROD CLEMENTS:One Track Mind B
(3曲ボーナス付再発。Lindisfarne の R. Clements が自身のルーツの音楽フォークやブルースへの回帰そして回想したもの。w. Ray Laidow, Steve Cunningham。94/2001作。Siren)
- *SONNY CONDELL:Backwater Awhile A
(触ると壊れそうな優しい唄と伴奏と唄の世界。S. Condell は正に夢織り人。自分の居心地のいい唄世界を創造し、オリジナリティな夢音楽を生み出している。2001作。Backwater)
- *KEVIN DOHERTY:Strange Weather A
(ウッドストック録音。w. Gerry O' Connor, Levon Helm, Amy Helm, Rick Danko, Aaron Hurwitz, Mike J. Dunn, Randy Ciarlante, etc. 99作。
- *FAYE ROCHELLE:Reflections B
(Faye 嬢の唄は一種独特。不思議な浮遊感がある。裏返るヴォーカルに

よっぴり東方風味のエキゾチックなサウンド...。女性的な感性がきらめく唄。w. Nigel Eaton, Kuljit Bhamra, Steafan Hannigan, etc. 2000 作。Offspring)

- *ANDREW WHITE:Pray For Rain B
(スコットランド出身のSSWで屈指のブリティッシュ・フォーク・ギタリストの心飛ぶデビュー作。2001 作。Vertical)

[DVD+CD/FAIRPORT]

※NTSC all regions 国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- *ACCOMPANYING DAVE SWARBRICK C
(DVD+CDセット。DVDは2008年、デンマークでのDave Swarbrick & Lars Kjaedegaard {ギター、ベース}の12トラック収録ライブとLars Kjaedegaardが進行役となって制作されたDave Swarbrickのドキュメンタリー・フィルム。Swarb & Martin Garthy, Fairport, Whippersnapperそしてライブ等の映像の合間にSwarbの音楽人生を振り返る内容。海パン姿のSwarb & Martin Garthyのおかしな写真なども。CDはDVD収録のライブからの7トラック。Swarbの演奏はいつになく心に響く。2011年。Gonzo)

[DVD&CD/FAIRPORT]

※NTSC all regions 国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- *RICHARD THOMPSON:Live From Austin Tx (DVD) B
*RICHARD THOMPSON:Live From Austin Tx (CD) A
(2001年7月、Austin City Limitsでのライブ。メンバーはR. ThompsonとDanny Thompson {ベース}とMichael Jerome {ドラムス}。1曲目から8曲目までアコースティック・ギターで、9曲目から14曲目までエレキ・ギターそして15曲目がアコースティック・ギター16曲目がエレキ・ギター {最後の16曲目はDVDのみに収録}の演奏なのだが、R. T. は真剣なギター・プレイとヴォーカルを披露し、終始釘付け。2005 作。New West)

[CD/FAIRPORT&ALBION FAMILY]

- *DAVE SWARBRICK:It Suits Me Well
- The Transatlantic Recordings: 1976-1983 ¥2790
(“Swarbrick” {1976年}, “Swarbrick 2” {1977年}, “Smiddyburn” {1981年}, “Flittin” {1983年}の”2 in 4”の二枚組CD。全46トラック。2016 作。Cherry Tree)
*FAIRPORT WITH SWARB:Scrum-Half Bricking ¥2790
(副題“Fairport With Swarb At Derby”。今から思えば懐かしいD. Swarbrick 救援1000枚限定チャリティーCD。本作は2003年に行ったイングランド・ツアーの18番目のコンサートの会場、Derbyのアセンブリー・ルームに特別にDave Swarbrickを招いて、収録した超レア・アルバム。Fairportの中心はDave Swarbrick。フィドルはよく唄っているが、細い音色は悲しくもある。Swarbrickの十八番“Rosie”は感涙なしには聴けません。全9曲。ご冥福を祈ります。2003 作。Front Row)
*DUNCAN WOOD & GUESTS:Swarbricks B

(本作のアイディアは Cathal McConnell と Duncan Wood が Swarb と Edinburgh Folk Club で共演したことに始まる。全曲 Swarb 作曲の曲で全 17 トラック収録。マンドリン、マンドーラ、フィドル、ヴァイオリン、バウロン等を演奏する Duncan は、Swarb の曲は完成されていて、簡単には編曲不可能と判断し、じゃあセッションしてで作ろう！ということになって、Cathal McConnell {フルート、ホイッスル}、Martin McDonald {ギター、ボーンズ}、Gavin Sutherland {ギター}、Maureen Hunter {ハープ} の仲間とフォーク・クラブでセッションするように作ってしまったのが本作。これが功を奏して、まるで Boys Of The Lough のようなスコティッシュな Swarbrick Music が完成。2013 作。Beaeachwood)

*ALISTAIR HULETT & DAVE SWARBRICK

: Saturady Johnny & Jimmy The Bat (1996 作。RedRatter) C

*ALISTAIR HULETT & DAVE SWARBRICK

: The Cold Grey Light Of Dawn (1998 作。Musikfolk) C

*SANDY DENNY: The Best Of Sandy Denny

- The Millennium Collection ¥1500

(地震後の棚整理で発見！カナダ A&M から発売された Sandy Denny のベスト盤。全 10 曲。2002 作。カナダ A&M)

*ROSIE CARSON & KEVIN DEMPSEY: Nightbirds

B

(Dando Shaft、Whippersnapper の K. Dempsey とアイリッシュ系フォーク・シンガーでフィドル奏者の世代違いの男女のデュオ。特に Whippersnapper 時代から K. Dempsey の羽毛の感触のブリティッシュ・フォークが好物だったが、本作はその期待を裏切らぬもの。Kevin は Rosie という花を得て、むしろ Kevin の美学を深めた独自のブリティッシュ・フォークを開花させていて、もううっとり。小春日和な日にのほほーんと聴いていたくなる。2014 年◎の 2016 作。Haystack)

*ASHLEY HUTCHINGS BIG BEAT COMBO

: Twangin' 'n' A-traddin' Revisited B

(1994 年作の Big Beat Combo = Ashley Hutchings, Richard Thompson, Simon Nicol, Maartin Allcock, Simon Care, Phil Beer 他 = の青春時代のポップ & ロック・アルバム "Twangin' 'n' A-traddin'" に三曲 {内二曲は 60 年代風がールズ・トリオの "Velveteens" がヴォーカル} を加えた "Revisited" 版。全 15 トラック。三つ折り紙ジャケット仕様。十代の頃の写真。1994/2015 作。Talking Elephant)

*ALBION CHRISTMAS BAND: One For The Road

B

(2013 年、Albion Christmas Band {Ashley Hutchings, Simon Nicol, Kellie While, Simon Care} が結成 15 周年を記念して行ったツアーの中から、その年の 12/12 にロンドンの Kings Place でのライブを収録した新作。何と 19 トラック！最近 Ashley Hutchings がらみのまともな新録アルバムのリリースがないことから、「Ashley は引退？」と半ば心配していたが、達者のヴォーカルとバンド・リーダーとしての雰囲気あるしゃべりを聴き、一安心。本作は一に Kellie While の美しいシンキング、二に Simon Nicol の穏やかなシンキングが良い。クリスマスの Happy な曲以上に清く美しい曲が多い英国的に美しいクリスマス音楽だ。2014 作。Rooksmere)

- *ALBION DANCE BAND:I Got New Shoes Revisited A
 (Albion Dance Band{Ashley Hutchings, Phil Beer, Simon Care, Trevor Foster, John Shepherd そしてゲストの Polly Bolton}の1988年作がCD再発。ボーナス・トラック3トラック{2曲がライヴで1曲がスタジオ録音}付の全13トラック。この時代のAshley関連のアルバムはどれも勢いがある。久しぶりに本作を聴いたが、スツと重くて跳ねるドラムス、ノイズなエレキギター、中世風味等等渾然一体としたる英国風フォーク・ロックはパワフルでかつジャンプ力がある。皆さん、乗ってますねえ。1988/2014作。Talking Elephant)
- *SIMON NICOL:Consonant Please Carol A
 (Simon Nicolの1992年作のセカンド・ソロ・アルバム。“Rosemary’s Sister”の作者Huw Williams作の曲を4曲を含む本作は、英国的叙情はさらに深まっていて、しんみりと心に響く。名作。w. Martin Allcock, Gerry Conway, Danny Thompson, Maggie Reilly, Beryl Marriott, Grant Bowden, Sherryl&Sheila Parker, Pete Zorn。1992/2014作。Talking Elephant)
- *CHRISTMAS IN ALBION “A Festive Compilation” A
 (Albion Band, Albion Christmas Band, St Agnes Fountain, Phil Beer, Fairport Convention, Chris & John Leslie, Amazing Blondel, Andy Steeleの「フォーク・ロック」なクリスマス・ソング集。全20トラック。2012作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION:And The Band Played On B
 (2003年2月22日のMarlowe Theatreのコンサート・ライヴ音源からの20トラック{26曲}収録の2枚組。メンバーは、S. Nicol, D. Pegg, Rick Sanders, Chris Leslie, Gerry Conway, Andy Guttridge。2012作。Secret)
- *SHIRLEY&DOLLY COLLINS:Snapshots A
 (1970年代後半のライヴと60年代録音のデモ音源数曲の計22曲入。ShirleyのシンギングとDollyの牧歌的なホカソンの音色はイングランドのトラッドの牧歌的で故郷のような温もりを保持。2006作。Fledg’ling)
- *FAIRPORT CONVENTION:Before The Moon D
 (1974年のEbbets Fieldでのライヴ。二枚組。20トラック。2002作。Pilot)
- *ANNE DE BRETAGNE C
 (ハート・カバー・装丁の2枚組。副題“Le Rock Opera d’Alan Simon”。全曲Alan Simon作詩作曲の中世ブルターニュの歴史絵巻物語。参加ミュージシャンが豪華。Cecile Corbel, Fairport Convention, Chris Leslie, Tri Yann, Didier Squiban, Pat O’May等等。全30曲。色鮮やかに描かれたP48の歴史絵巻ブックレット付。2009作。Babaika)
- *THE GATHERING BRITANNIA:The Bridge Between a
 (Gathering Britanniaなるバンドのラインナップは何と、Ray Jackson, Jerry Donahue, Doug Morter, Rich Kemp, Clive Bunker、そしてJerry Donahueの娘でシンガーのKristina DonahueというFairport, Fotheringay, Albion Band, Steeleye Span, Jethro Tull出身者の夢のバンド。おじさん達の中で、Kristinaの優美なヴォーカルが花を添えている。Produced by Jerry Donahue, Ray Jackson and Doug Morter。2011作。Itsaboutmusic.com)
- *FAIRPORT CONVENTION:More Things We Did On Our Holiday B

(2枚組セット。ディスク1は1986年のCropredy Festivalのライヴで全12曲
〔内4曲はIain Matthewsがリード・ヴォーカル。そのI. MatthewsにS. Nicol,
D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Jerry
Donahue, Cathy Lesurf, Clive Gregson, Christine Collister〕。
ディスク2は1987年のCropredy Festivalのライヴで全13曲〔S. Nicol,
D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Ralph
McTell, June Tabor, D. Swarbrick, Ian Anderson, Cathy Lesurf〕。
Produced by Dave Pegg。Secret)

*ALBION BAND

: Another Christmas Present – Live In Concert A

(Cathy Lesurf, Ashley Hutchings, John Tams, Phil Beer, Martin
Bell, Trevor Fosterのラインナップで1986年に行ったクリスマス・ツアーの未発表
ライヴ盤。全19トラック。2010作。Talking Elephant)

*ALBION BAND: Vintage Vol. 2 A

(Albion Bandの1972年～80年間の未発表音源を集めた編集CD。メ
ムバはAshley Hutchings, Shirley Collins, Martin Carty, Dave
Mattacks, Simon Nicol, Sue Harris, John Kirkpatrick, John Tams,
Graham Taylor等無敵のメムバ。70年代Albion/Albion Dance Band
の集大成的音楽。全15トラック。2010作。Talking Elephant)

*ASHLEY HUTCHINGS&RAINBOW CHASERS: A Brilliant Light A

(Ashley&Rainbow Chasersの2004年12月のライヴ。16曲入の2枚組。そ
れぞれが魅力的なヴォーカルを披露し、ギター、フィドル、ヴァイオリン等のアコースティ
ックな音色が美しい英国的叙情と気品溢れる唄と音楽が堪能できる
心洗われるライヴ。2005作。Secret)

*ASHLEY HUTCHINGS AND KEN NICOL: Copper, Russet And Gold C

(Ashleyの、AlbionもRainbow Chasersも離れての本作は長年の音楽
仲間でギター名手でシंगाーのK. Nicolとの共演盤。K. Nicolはブリティッシュ・
フォーク然とした美麗で巧みなアコースティック・ギターで、かつ時に格調高いエレ
キギターをかき鳴らし、英国情緒を豊かに演出し、AshleyとK. Nicol
が毅然としたヴォーカルでAshley&Ken流英国情緒を堪能させる。ゲスト
で美声を震わすAbbie LatheとBecky Millsが良き英国情緒の芳香
を添えている。2010作。Park)

*ALBION BAND: Captured B

(1990&91年のAlbion Band〔A. Hutchings, Julie Matthews, Phil
Beer, Simon Care, Trevor Foster〕と1992年のAlbion Band〔S. Care
とT. Fosterが抜け、ギターのKeith Hinchliffeが加入〕の音源からの
編集盤で全13トラック。2009作。Talking Elephant)

*ASHLEY HUTCHINGS & ERNESTO DE PASCALE

: My Land Is Your Land C

(イングランド側はAshley&Friendsとイタリア側はErnesto De Pascale&
Friendsの共演アルバム。Ashley側は、Rainbow Chasersのヴォーカルの
Ruth Angell&Jo Hamiltonの二人にChris Leslie, Ken Nicol,
PJ Wright, Lester Simpson, Marc Hutchinson等強力ラインナップで、イ
ングランド情緒を湛えた潔いフォーク・ロック。2008作。Esoteric)

*KEITH DEWHURST & THE ALBION BAND

: Lark Rise To Candleford B

- (Albion Band の 1980 年作。80/2008 作。Talking Elephant)
- *SWEEPS "A Joyful Celebration Of The Morris" B
 (Albion Dance Band, Morris On Band, Grandson And Great Grandson Of Morris On, Chris Leslie, Tickled Pink, Albion Band, Cobbled Together の音源からの生え抜きもモリス曲が全 14トラック。BGM で流してただけでモリス祭り気分。2008 作。Talking Elephant)
- *ALBION MORRIS: Still Dancing After All These Years B
 (Albion Morris は Ashley Hutchings のモリス・ダンス曲のロッキン・アプローチに影響を受けて 1972 年に結成されたダンス・付・グループ。本作は 2002 年の 30 周年記念にどこぞの屋根裏部屋で録音されたもの。メンバーは Shirley Collins {ここではナレーション役}, Graeme Taylor, Michael Gregory, Philip Picket, Tom Leary, John Watcham, Ian Culter, Jon Davie 等モリス界のツモノを含むメンバー。2008 作。Talking Elephant)
- *DAVE PEGG&PJ WRIGHT: Galileo's Apology a
 (Fairport の D. Pegg と Little Johnny England, Dylan Project の PJ とのデュオ・アルバムはヤン・趣味の渋く気概があり、それでいて風通しの良い爽やかな SS タイプ音楽。2007 作。Matty Grooves)
- *RICHARD THOMPSON BAND: Semi-Detached Mock Tudor D
 (R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に Teddy Thompson, Danny Thompson, Michael Jerome による R. T. Band の 1999 年 11 月の米国ツアー時の白熱ライヴ。全 13 曲。2002 作。Beeswing)
- *RICHARD THOMPSON BAND: Ducknapped D
 (R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に Pete Zorn, Earl Harvin, Danny Thompson, Rory McFarlane による R. T. Band の 2003 年 3 月の英国ツアー時と米国カリフォルニアでのライヴ。ゲスト: Christine Collister & Judith Owen。全 14 曲。2002 作。Beeswing)
- *RICHARD THOMPSON BAND: More Guitar D
 (R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に John Kirkpatrick, Clive Gregson, Christine Collister, Pat Donaldson, Kenny Arnoff による R. T. Band の 1988 年のライヴ。全 12 曲。2003 作。Beeswing)
- *RICHARD THOMPSON BAND: Faithless D
 (R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に Clive Gregson, Christine Collister, Gerry Conway, Rory McFarlane による R. T. Band の 1985 年の白熱ライヴ。2004 作。Beeswing)
- *THE WORKING PARTY: Live At The Mill ¥1000
 (Working Party は Chris Leslie, Troy Donockley, Simon Mayor, Chris Parkinson, Martin Allcock によるスーパー・即席バンド。"The Kid on the Mountain", "The Lark in the Morning", "Sigh Beag Sigh Mor", "The Mason Apron", "The Star of County Down" 等等など名曲ずらり。2006 作。TWPPCL)
- *SANDY DENNY: Where The Time Goes ¥2190
 (1967 年収録の Strawbs との同曲のオリジナル・ヴァージョンをフィーチャーした 18 曲。本作自体は 1967 年 Saga というレベルから発売された Sandy の最初のスタジオ録音音源からその時のアウトテイク 5 曲を含むもの。67/2005 作。Sanctuary)

- *SANDY DENNY:The Original Sandy Denny ¥2190
 ("North Star..."の前の67年作。Trojan/Sanctuary)
- *SANDY DENNY:Sandy a
 (72年作"Sandy"に"Pass Of Arms"からの2曲を含むボーナス曲5曲を加えたリマスター盤。72/2005作。Island)
- *SANDY DENNY:Like An Old Fashioned Waltz a
 (73年作"Like An Old Fashioned Waltz"に未発表音源から4曲のボーナス曲を加えたリマスター盤。73/2005作。Island)
- *SANDY DENNY:Rendezvous a
 (77年作"Rendezvous"にプロモーション・シングルB面を含むボーナス曲5曲を加えたリマスター盤。77/2005作。Island)
- *JOHN&CHRIS LESLIE:Ship Of Time D
 (John&Chris Leslie兄弟の76年製作のデュオ・アルバム。John&Chrisがイングランド等のダンス曲と民謡を若い頃から愛していたのが牧歌的なトラッドの演唱からほんわかと伝わってくる。青春の日のトラッド。締め括りは"Adieu Sweet Lovely Nancy"。76作。Kissing Spell)
- *FAIRPORT CONVENTION:Off The Desk D
 (2枚組。Ric Sanders編集の2004年~2005年のライヴ音源から全22曲。2006作。Matty Grooves)
- *FAIRPORT CONVENTION:Live Across The Centuries ¥1000
 (2枚組20トラック入編集盤。2000年のオランダでのライヴ録音"Now Be Thankful"に"The Airing Cupboard Tapes 71-74"から5トラック、"Who Knows"から5トラック、"Acoustically Down Under"から4トラック、"The Wood&The Wire"から1トラックそして"Festival Cropredy 2002"から4トラック。2008作。Smith&Co)
- *FAIRPORT CONVENTION
 :A Lasting Spirit The Collection ¥3280
 (Fairportの3枚組。ディスク1は希少曲を含む初期の音源と97年のクワレターのライヴから初期のパートリを収録で18曲。ディスク2はスタジオ録音からの15曲。ディスク3は主に97年のクワレターのライヴからで14曲。ライヴのラインナップはR. Thompson, D. Mattacks, Vikki Clayton, Jerry Donahue, D. Swarbrick, Rick Sanders, Chris Leslie, Dave Mattacks, Bruce Rowland, D. Pegg, S. Nicolと思われる。2005作。Sanctuary)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Fairport Companion C
 (Fairport関係音楽家の編集CD。36トラック収録の2枚組。人脈図付。Ian Campbell Folk Group, Ethnic Shuffle Orchestra, The Uglys, Sandy Denny, The Pembroke Unique Ensemble, Al Jones, , Trader Horne, Steeleye Span, Stefan Grossman, Marc Ellington, Shelagh McDonald, Shirley Collins&The Albion Band, Spiryogyra, Lal& Mike Waterson, Albion Country Band, Ian Matthews, Etchingham Steam Band, Harvey Andrews&Graham Cooper, Albion Dance Band, Royston&Heather Wood, The Albion Band, Dave Swarbrick, Ashley Hutchings&Friends。2006作。Castle)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Battle C
 (ドイツでThe Battleというタイトルで発売された"The Five Season"と

- “Red&Gold”の特殊紙ジャケット2枚組CD。2005作。ドイツMembran Music)
- *FAIRPORT CONVENTION:Fairport Convention A
(4曲のボーナス付デジタル・リマスター。68/2003作。Polydor)
 - *FAIRPORT CONVENTION:What We Did In Our Holiday A
(3曲のボーナス付デジタル・リマスター。69/2003作。Island)
 - *FAIRPORT CONVENTION
:Heyday “The BBC Sessions 1968—69 A
(8曲のボーナス付デジタル・リマスター。Island)
 - *FAIRPORT CONVENTION:“Babbacombe” Lee A
(2曲のボーナス{BBC録音で内1曲はJ. Donahue、残り1曲はS. Denny参加}付デジタル・リマスター。71/2004作。Island)
 - *FAIRPORT CONVENTION:Live Convention C
(5曲のボーナス付デジタル・リマスター。74/2005作。Island)
 - *FAIRPORT CONVENTION:Before The Moon C
(2枚組。74年のデノン・レーベルでのライヴでメンバーはSandy Denny, Trevor Lucas, D. Swarbrick, D. Mattacks, D. Pegg, Jerry Donahue。全20曲。P22のブックレット付。2002作。Pilot)
 - *FAIRPORT CONVENTION:Rising For The Moon C
(4曲のボーナス付デジタル・リマスター。75/2005作。Island)
 - *FAIRPORT CONVENTION:House Full A
(2曲のボーナス付デジタル・リマスター。86/2001作。Island)
 - *FAIRPORT CONVENTION:Gladys' Leap A
(3曲のボーナス付リマスター。ボーナスは82年のCropredyのライヴで、Trevor Lucas, D. Swarbrick, D. Pegg, J. Donahue, D. Mattacks, S. Nicolの最強の布陣。T. Lucasがヴォーカルの2曲の何と強力なこと。Fairportファン感涙! Talking Elephant)
 - *FAIRPORT CONVENTION
:What We Did In Our Holiday(69作。Island) ¥1580
 - *FAIRPORT CONVENTION:Unhalfbricking(69作。Island) ¥1580
 - *FAIRPORT CONVENTION:Full House(70作。Hunnibal) ¥1580
 - *FAIRPORT CONVENTION:Angel Delight(71作。Island) ¥1000
 - *FAIRPORT CONVENTION
:The History Of Fairport Convention ¥1580
(フェアポート初期のベスト盤。全18曲。フェアポートの人脈地図付。72作。Island)
 - *FAIRPORT CONVENTION:Nine(73作。Island) ¥1000
 - *FAIRPORT CONVENTION:In Real Time ¥1000
(87年のCropredyでのライヴ。87作。Island)
 - *FAIRPORT CONVENTION:Red&Gold ¥1580
(88録音の“Red&Gold”に94年のCropredy Fesでの“Close To The Wind”を加えた再発CD。HTD)
 - *FAIRPORT CONVENTION:The Five Seasons ¥1580
(90録音の“The Five Seasons”に94年のCropredy Fesでの“Caught A Whisper”を加えた再発CD。HTD)
 - *FAIRPORT CONVENTION:Who Knows Where The Time Goes?¥1000
(S. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, R. SandersにC. Leslieからフェアポートの97作。ゲスト:R. Thompson。97作。Woodworm)

- *FAIRPORT CONVENTION: Jewell In The Crown a
(95作。Green Linnet)
- *FAIRPORT CONVENTION: The Wood&The Fire a
(S. Nicol, C. Leslie, D. Pegg, R. Sanders, G. Conway から成る衰え知らずの Fairport の New。99作。Woodworm)
- *FAIRPORT CONVENTION: The Cropredy Box D
(Cropredy の 30 周年ライヴ。3 枚組。98/2003 作。Sanctuary)
- *FAIRPORT CONVENTION: XXXV a
(2001 年収録の Fairport 30 周年アルバムに 2002 年の 30 周年記念ツアーのライヴ音源から Simon Nicol がリード・ヴォーカルの“The Widow Of Westmorland’s Daughter”と Chris Leslie がリード・ヴォーカルの“Rosie”の 2 曲を加えて発売。全 16 曲。2001/2006 作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION: 25th Anniversary Concert B
(Fairport 結成 25 周年記念コンサート{1992 年の Cropredy Festival}の 2 枚組ライヴ盤。ゲスト: Robert Plant, Richard Thompson, Chris Leslie, Julianne Regan, Ralph McTell, Dave Swarbrick, Jerry Donahue, Ashley Hutchings, Vikki Clayton, Bruce Rowland, Danny Thompson, Geoff Hughes。92/2007 作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION: Old・New・Borrowed・Blue ¥1000
(Woodworm と Green Linnet から発売され長い間廃盤だった 1995 年アコースティック・フェスティバルの“Banbury Mill Theatre”でのライヴ盤が再発。ラストの“Matty Groves/Dirty Linen”のみスタジオ録音。S. Nicol, D. Pegg, M. Allcock, R. Sanders。95/2007 作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT WITH SWARB: Scrum-Half Bricking D
(D. Swarbrick 救援 1000 枚限定チャリティーCD。副題“Fairport With Swarb At Derby”。2003 作。Front Row)
- *DAVE SWARBICK WITH FAIRPORT CONVENTION: SwarbAid ¥1500
(“The Bonny Black Hare”, “My Heart’s In New South Wales”, “Rosie”, “When I Paint My Masterpiece”の 4 曲入チャリティーCD。Woodworm)
- *FAIRPORT CONVENTION: Over The Next Hill C
(2004 作。Matty Grooves)
- *FAIRPORT CONVENTION: Who Knows? ¥1580
(副題“The Woodworm Archives Vol. 1”。1975 年 10 月 31 日の Uxbridge Brunel University でのライヴ。メンバーは Sandy Denny, Trevor Lucas, Jerry Donahue, Dave Pegg, Swarb, Bruce Rowland。曲目は“Rising For The Moon”, “One More Chance”, “Stranger To Himself”, “Sloth”, “John The Gun”, “Down In The Flood”[B. Dylan 作], “Who Knows Where The Time Goes?”他全 13 曲。2005 作。Talking Elephant)
- *THE COMPLEAT DANCING MASTER B
(74/2002 作。Fledg’ling)
- *LINDA THOMPSON: Give Me A Sad Song B
(未発表&希少曲集。17 曲。2001 作。Fledg’ling)
- *RICHARD THOMPSON: Henry The Human Fly B
(デビュー作にして孤高。オリジナル・ジャケットにはなかった希少写真付。)

w. Sandy Denny, Linda Peters, Andy Roberts, Ashley Hutchings,
John Kirkpatrick, Barry Dransfield, Pat Donaldson, etc.

72/2004 作。Fledg'ling)

- *RICHARD&LINDA THOMPSON:Hokey Pokey a
(リマスター。未発表ライヴ音源 5 曲ボーナス曲入。75/2004 作。Island)
- *RICHARD THOMPSON:Amnesia (88 作。Capitol) ¥1780
- *RICHARD THOMPSON:Rumor And Sigh (91 作。Capitol) ¥1780
- *RICHARD THOMPSON:Mirror Blue (94 作。Capitola) ¥1780
- *RICHARD THOMPSON:Action Packed C
(副題“The Best of the Capitol Years”。息子 Teddy との新録 1 曲
と初 CD 化 2 曲を含むリマスター全 19 曲。2001 作。Capitol)
- *RICHARD THOMPSON:The Old Kit Bag D
(Dual Disc {CD&DVDセット}。上記タイトルの CD に加え、裏面 DVDサイドは 5.1
Surround Sound による全曲と 2003 年 Providence は Lupo's でのライヴ
でエレクトリック・セットによる重厚な“Outside Of The Inside”と“Jealous
Words”の 2 曲他歌詞やハイヴイグファイ等収録。2003/2005 作。Silverline)
- *ASHLEY HUTCHINGS:Kickin' Up The Sawdust B
(リマスター。77 作。BGO)
- *THE ALBION BAND:Albion Sunrise A
(副題“The HTD Recordings 1994-1999”。全 32 曲入 2 枚組。2004 作。
Castle)
- *THE ALBION BAND:Acousticity-On Tour B
(Ashley Hutchings, Simon Nicol, Chris While, Ashley Reed のライヴ
アップの Albion の 93 年と 94 年のライヴ音源からの編集 CD。2004 作。
Talking Elephant)
- *THE ALBION BAND
:Another Christmas Present From The Albion Band B
(“Live In Concert”。2010 作。Talking Elephant)
- *MORRIS ON B
(モリス・ダンス曲をフォーク・ロック化した 70 年代ブリティッシュ・フォークの名盤。Ashley
Hutchings, R. Thompson, D. Mattacks, J. Kirkpatrick, B. Dransfield。
ゲスト:Shirley Collins。72/2002 作。Fledg'ling)
- *ASHLEY HUTCHINGS/ALBION BAND
:Songs From The Shows Vol. 1&2 ¥3480
(2 枚組。77~89 年のコンサートとスタジオ録音。w. Phil Beer, Cathy Lesurf,
Simon Nicol, Phil Pickett, Ric Sanders, June Tabor, John Tams,
Graeme Taylor, etc. Road Goes On Forever)
- *ALBION BAND:Heritage ¥2080
(これ何だろう?と違って仕入れたら、ボーナス曲 4 曲入計 12 曲の“Rise
Up Like The Sun”{77 作}だった。黄金期の Albion ですね。ゲスト:
Kate McGarrigle, Richard&Linda, Martin Carthy, Andy
Fairweather-Low。77/2001 作。EMI Plus)
- *ALBION BAND:Albion Heart (95 作。HTD) B
- *ALBION BAND:Demi Paradise (96 作。HTD) B
- *ALBION BAND:The Acoustic Years 1993-97 A
(未発表曲 2 曲を含む編集 CD。全 17 曲。HTD)

- *ASHLEY HUTCHINGS:Rattlebone&Ploughjack B
(Morris Dance&Molly Dance Album,76作,BGO)
- *ASHLEY HUTCHINGS DANCE BAND
:A Batter Pudding For John Keats(96作,HTD) ¥1780
- *ALBION DANCE BAND:The Prospect Before Us C
(リマスター,76作,BGO)
- *RIDGERIDERS:In Concert B
(Ashley Hutchings, Chris While, Phil Beers から成る
Ridgeriders のアコースティック・ライヴ。Ashley がらみのアルバムの中でも最
もイングランド的で唄や音楽に最も真摯なアルバム。全18曲。2001作。
Talking Elephant)
- *DAVE SWARBRICK&FRIENDS:The Ceilidh Album ¥700
(CD-Rにつき検盤済み。1978年発売の“The Ceilidh Album”に1977
年音源の2曲を加えたチャリティー・アルバム。w. Simon Nicol,
Dave Pegg, Bruce Rowland, Beryl&Roger Marriott, Allan
Robertson,Atrax)
- *DAVE SWARBRICK WITH SIMON NICOL:In The Club ¥700
(CD-Rにつき検盤済み。1982年のカセット・アルバムに81年、83年、
84年音源5曲を加えたチャリティー・アルバム。全16トラック。
2001年作。Atrax)
- *ECLECTION:Eclection C
(オーストラリア人女性シンガー、Kerrille Male に Trevor Lucas, Gerry
Conway, Michael Rosen, George Hultgreen から成るフォーク・ロック・バ
ンド。彼ら唯一の68年作の本作はプレ・フェアポート/フォザンソンのとい
うか、米国西海岸ロックの影響を受けた初期ジ・エファースン・エフ・レーンのサイ
ケ・ロック。2001再発。Collector's Choice Music)
- *THE BUNCH:Rock On A
(Sandy Denny, Richard Thompson, Linda Peters, Ashley Hutchings,
Dave Mattacks, Pat Donaldson, Ian Whiteman, Gerry Conway,
Trevor Lucas, Tony Cox, Dundee Horns。1972/2003作。Fledg'ling)
- *VIKKI CLAYTON:Movers And Shakers A
(1997作。w. Ric Sanders, Gerry Conway, John Kirkpatrick, Martin
Barre, Liam Genochey, Robert Foster, etc. 1997作。A New Day)
- *SANDERS, BAKER AND CLAYTON:Carried Away A
(Rick Sanders {ウァイオリン}, Fred Thelonus Baker {ベース、ギター},
Vikki Clayton {ウァーカ、ギター} のトリオ。1995作。
Speaking Volumes)

[CD/FOLK ROCK]

- *MARY JANE:Tacit A
(70年代ブリティッシュ・フォークの麗しさを追い求める Mary Jane の3枚目は
ライヴ・セッション。Fairport, Steeleye, Trader Horn, Trees のフレイヴァーが
お好みの方は必聴。“Matty Globes”そっくりな“Lady Margaret”,
“She Moved thro' the Fair”, “Blackwaterside”ほか全13曲。2000
作。Seventh Wave)
- *THE STEPPES:Drop Of The Creature a

(アイリッシュ・アメリカ人によるフォーク・ロック・バンド。70年代サイケ・ロックとブリティッシュ・フォークとが出会ったようなミステリアスなロック。70年代趣味丸出し。97作。Delerium)

*STONE ANGEL:East Of The Sun B
(Stone Angelの素晴らしいNew。理想のブリティッシュ・フォーク&トラッド。2001作。Kissing Spell)

*THE FOLD:Close Up B
(Steve HollandとJoanna Shielのかっこいいヴォーカルをフィーチャーした英美的美意識発散のフォーク・ロック。体を張ったエレクトリック・ギターやドラムスやベースの音が何とも快感。97作。Orange Sky)

[LP+CD/ENGLAND]

*BELLOWHEAD:Matachin D
(イングランド屈指の大型トラッド・バンドの最近作のボーナスCD付カラーLP限定盤。2008作。Navigator)

[BOOK+CD/ENGLAND]

*THE HALLIARD:Broadside Songs ¥2980
(再結成Halliard{Nic Jones, Dave Moran&Nigel Paterson}の新録曲10曲と1968年録音の7曲の計17曲CDとブロードサイド・ソング30曲収録ソングブック{A4版P46。メンバー3人のサイン入!}のセット。2005作。Mollie Music)

[DVD/ENGLAND] PAL all regions

※PAL専用DVDプレイヤー/パソコンで再生可能

*NIC JONES:The Enigma Of Nic Jones D
(1982年二月の交通事故の振り返りから幕開けするNic JonesのドキュメンタリーDVD。Nic JonesをはじめとしてJim Moray, Chris Wood, Martin Carthy, Eliza Carthy, Anais MitchellそしてAshley Hutchings等々多くのミュージシャンや音楽関係者がNic Jonesについて語ったり、うたったり、ギターをかき鳴らしたりする場面の後、2010年の“Sidmouth Folk Festival”でのNic Jones Trio{Nic Jones, Joe Jones, Belinda O’Hooley}のライブが収められている。加えて“Extras”として、Nic Jones Trioが三曲、Eliza Carthyが一曲、Blair Dunlopが一曲、Pete Coeが二曲、ホーム・コンサート風ライブで収録されている。Nicのこやかな表情と穏やかなシンキングが印象的。88分。Topic)

*THE WATERSON FAMILY:Live At Hull Truck B
(Norma, Eliza, Mike Waterson, Martin Carty, Mikeの妻Ann, Mikeの娘Rachel, Eleanor, Lal Watersonの息子Oliver、娘MarryのWaterson Familyの2010年の“Homecoming Concert”ライブ。まるで肝っ玉母さんNorma Watersonの司会進行役。各出演者の見どころ、聴きどころ色々なWaterson一家の伝統歌謡。Mike Waterson翁のシンキングは特に聴きもの。いつの間にやらElizaの貫禄は母Norma以上。“Bright Phoebus”, “Fine Horseman”他全22曲。誕生日の祝いもある至福な2時間11分32秒。2011作。Beautiful North)

*MARTIN SIMPSON:Prodicat Son – The Concert C
(ロンドンの Union Chapel でのライヴ。15トラックの 17 曲のライヴ と Martin の故郷の小学校や生まれ育った町や家を訪ね、子供時代のことを振り返る映像。放蕩息子だった Martin が亡き母へ捧げた曲を含む 1 曲目のトビレは何より圧巻で、慎重に音を選ぶギターの演奏を含め、ライヴならではの迫真の演唱は感動的。共演者は Andy Cutting [アコ], Kellie While [ヴォーカル], Andy Stewart [ベース]。2 時間 10 分。2009 作。Topic)

[DVD/ENGLAND] NTSC all regions

※国内製 DVDプレーヤーで再生可能

*ELIZA CARTHY:My Music A
(Eliza Carthy with Jon Boden, John Spiers, Ben Ivitsky, Gideon Jukes の白熱の生演奏からスタートする Eliza Carthy のドキュメンタリー・フィルム。Eliza Carthy のソロの生演奏と上記編成バンドの生演奏をの合間に、Watersons のライヴ [モノクロというのが時代を感じさせる] や Martin Carthy のギター演奏や Marry Waterson&Oliver Knight のライヴ や Billy Bragg や Norma Waterson の話しなどを挟む構成。Eliza の渾身の生演奏とシンキング と Eliza が身近に感じられる DVD。Eliza のパワー溢れるフィドル演奏が物凄い。45 分。2013 作。Gonzo)

*JOHN RENBOURN・JACQUI McSHEE:In Concert A
(John の穏やかで鮮やかなギターと唄、そして Jacqui のシンキングはそのアコースティックな空気と相まって、ある種清涼感さえ感じられる気持ちのいいもの。ゲスト:Clive Carroll。1 時間 22 分。2005 作。Hard Road Recording)

(CD/ENGLAND {Free Reedリイシュー盤})

*THE OLD SWAN BAND:The Old Swan Band a
(ダンス音楽としてのみならず、イングランドのトラッド・アルバムとして魅力的な OSB の 78 年の 2 枚目。コンサティナ&トロンボーンの Mel Dean の加入効果かバンドの音楽は躍動的でダイナミックに変身し、男女の古風なシンキングは大空をかけるように輝いている。イングランドのダンス音楽の一つの頂点的。78/2008 作。Free Reed)

*ROARING JELLY:Golden Gates / MICHAEL HEBBERT a
:The Rampin' Cat
(イギリスのラグタイムやスキップル、ジブシー音楽、古いジャズやポピュラー音楽そしてセピア色の愉快的な唄のコミック・バンド Roaring Jelly [Derek Pearce, Clive Harvey, Mick Hennessey] の 76 年のデビュー作とアルバム・ミュージシャンでコンサティナ奏者の Michael Hebbert の 76 年のデビュー作の "2 on 1"。ゲスト:Rod&Danny Stradling, John Tams, Steve Bentley, Andrew Frank [ヴォーカル]。全 22 トラック。76/2008 作。Free Reed)

*ALISTAIR ANDERSON:Concertina Workshop a
(副題 "Traditional Music On The English Concertina Played Alistair Anderson"。High Level Ranters で今もコンサティナ演奏家として教師として活動している Alistair の 74 年作。本作に即した 28 曲収録の楽譜はイングリスティックスタイルのコンサティナを学ぶ生徒に人気。模範演奏として最高の音楽。w. Dave Richardson, Tich Richardson,

Geoff Harris, Graham Pirt{見事なトラッド・シンキング!}。A. L. Lloyd の
リジナル・リーダー・ノート付。14トラックの 28 曲。74/2008 作。Free Reed)

- *THE TRANSPORTS“The 1977 Ballad Opera By Peter Bellamy”D
(オーストラリアへの囚人の搬送の歴史的事実をもとに制作されたバラッド・
オペラ。発売年に“Folk Album Of The Year”に輝き、その 30 周年記念
に再リリース。w. June Tabor, Nic Jones, A. L. Lloyd, Martin Carthy,
Norma Waterson, Mike Waterson, Vic Legg, etc. ラストはボーナス曲で
Fairport による“Dance: The Convicts’ Wedding”の豪快なエレクトリッ
ク・トラッドで幕。77/2008 作。Free Reed)

[EP/ENGLAND]

- *SHIRLEY COLLINS: English Songs Volume 2 ¥1590
(1958 年と 1959 年の収録で、1964 年に英国のコレクター・レコーズ
からリリースされたという四曲収録のシングル盤の再発盤。デビ
ュー当初の頃の Shirley Collins の素朴で初々しいフォーク・ソ
ングにうっとり。曲目は A 面が“Dance To Your Daddy”と“The
Spermwhale Fishery”で、B 面が“My Bonny Miner Lad”と“The
Foolish Boy”。伴奏は自身のバンジョーと Robin Hall のギター。
伴奏楽器としてのギターとバンジョーの素朴さが時代の空気を
感じさせる。彼女のデビュー作“Sweet England”{1959 年}の感動
再び。2015 年再発。Fledg’ling)

[CD/ENGLAND]

- *ROSIE HOOD: The Beautiful & The Actual B
(The Dovetail Trio の Rosie Hood の期待のソロ。Chris Foster の
“Hadelin”で円熟の英国トラッドを味わわせてもらったあとの、
Rosie の伝統歌に真摯に向き合った素朴なシンギングの何と初々
しく晴れやかなこと！本作に収録された伝統歌のほとんどは民
謡収集家で詩人の Alfred Williams が収集した英国南部ウィルト
シャー州の伝統歌。トラッドの名曲“Holland Hankerchief”の姉
妹曲として知られる背筋がゾクゾクっとするバラッドの“Lover’s
Ghost”を Rosie はまっすぐなシンギングでゾクゾクっとさせたか
と思えば、夢見るように美しい自作の唄を Emily Portman とのデュ
オで、大空を羽ばたくようにシンギングする。続くは Alfred
Williams が作ったトラッドの名曲“William Taylor”の替え歌の
“William’s Sweetheart”。Ollie King のモリス・ダンスっぽいメ
ローディオンの伴奏で、Rosie は軽やかにシンギングする。今咲い
たばかりの花々のように色とりどりで、二、三、毒花も混じった初
々しく美味な英国トラッド・アルバムだ。英国トラッドの心髄。
w. Ollie King, Emily Portman, Emma Smith, Barber Sisters, Tom
A Wright。2017 作。Rootbeat)
- *THE DOVETAIL TRIO: Wing Of Evening B
(Rosie Hood{ヴォーカル}、Jamie Roberts{Gilmore & Roberts の
Roberts/ヴォーカル、ギター}、Matt Quinn{コンサーティナ、ヴォーカル}の一姫二
太郎のイングランドのトラッド・ユニットの Dovetail Trio の清
々しいデビュー作だ。三人の演唱は清々しく爽やかでありなが

ら、イングランドのトラッドのシンギングとダンス音楽の美味なツボを体得しているかのように見事で、さらりと骨抜きにする。イングランドのトラッド界の金の卵。2015 作。Rootbeat)

*GREG RUSSELL: Inclined To Be Red B

(Greg Russell&Ciaran Algar のシンガー&ギター奏者の Greg のソロ。ブリティッシュ・フォークなキリッとしたギターの弾き語りを要にした Greg のシンギングの何と格調高いこと！ラウド・フォーク・コレクションからの伝統歌三曲や Dick Gaughan の名唱で知られる“The Star Of The County Down”の替え歌“Crooked Jack”{1978 年作の“Gaughan”収録}や自作の唄四曲などを、まるで、彼にとっては親の世代のブリティッシュ・フォーク&トラッドを切り拓いた巨匠シンガー達の精神に立ち返るほどの実直さで、うたい通している。身震いの傑作。w. Archie Churchill-Moss [アコ], Tim Yates [ダブルベース]。2017 作。Fellside)

*CIARAN ALGAR: The Final Waltz B

(2013 年に BBC2 の“Young Folk Award”賞受賞の Greg Russell & Ciaran Algar の天才アイリッシュ・フィドラーの Ciaran のソロ・デビュー作。2015 作。Fellside)

*CHRIS FOSTER: Outsiders (前作。2008 作。Green Man) B

*COHEN BRAITHWAITE-KILCOYNE: Outway Songster B

(これは驚きのイングランドのトラッド野郎だ。曲目は 17、18、19 世紀起源とされる伝統歌/バラッドが中心で、コンサーティーナとアコを様々なリズムを奏でながらシンギングする Cohen は、フォーク・リバイバル期のイングランドの大物、それも若き日の大物トラッド・シンガーのシンギングを思い起こさせる。2017 作。WildGoose)

*CHRIS WOOD: So Much To Defend C

(全曲自作曲で占めた本作は、英国トラッドの香りを立たせていたこれまでの彼の音楽とは違って、唄が内面に向けられているというか、うたう心が素直な感じがする。二曲目“This Love Won't Let You Fail”は、わが子が家を離れた両親の寂しさをうたった唄だが、自身の優しいギターと Gary Walsh の優しい Hammond オルガンの音色とともに、胸にぐっとくる。全曲、内面からわき上がるものをそのままギターを爪弾き、うたったかのような唄は、祈りにも似た内なるパワーを感じずにはいられない。2017 作。RUF)

*NANCY KERR: Instar B

(Nancy Kerr&James Fagan の Nancy のソロ。The Full English や Murmurs ではトラッド・ミュージシャンとして活動する一方で、ソロはブリティッシュ・フォーク/SSW 路線を強く打ち出している。Sweet Bisitor Band {James Fagan, Rowan Rheingans, Greg Russell, Tom Wright, Tim Yeates} による英国トラッド~フォーク・ロックの範囲でとびっきりの英国サウンドのもと、Nancy は唄を輝かす。フォーク・ロックなのは Nancy with Albion Band っぽかったり。母となった Nancy の唄はしなやかでしたたか。2016 作。Little Dish)

*NANCY KERR & JAMES FAGAN: Twice Reflected Sun A

(北イングランドのトラッド・スタイルを保持した Nancy&James のシンキングとフィドル、ブスーキ、ギターの伴奏は本作においても快調。とりわけ Nancy の北イングランド流の凜としたシンキングは格別で、自作曲での豊かな詩情は、James の表現力豊かなブスーキと Nancy の北イングランドの空気たっぷりの緩急自在なフィドルの伴奏と相まって、孤高の輝きを放っている。
2010 作。Navigator)

- *FAUSTUS:Faustus (2008 作。Navigator) A
- *KATE RUSBY:Life In A Paper Boat B
(4 枚目のスタジオ録音盤。w. Nick Cooke, Steven Byrnes, Steven Iveson, Duncan Lyall, Mike McGoldrick ほか。2016 作。Pure)
- *KATE RUSBY:The Frost Is All Over B
(Kate Rusby の 2015 年作のクリスマス・アルバム。ブックレットも隅から隅まで雪色。w. Aaron Jones, Cormac Byrne, Nick Cooke, Steven Byrnes, Steven Iveson, Duncan Lyall ほか。2015 作。Pure)
- *MR. MARTIN SIMPSON & MR. DOM FLEMONS
:A Selection Of Ever Popular Favourites A
(2015 年の秋に Martin Simpson と Carolina Chocolate Drops の創設メンバーでアメリカン・ソングスターの Dom Flemons がデュオを組んで、コンサートを行ったときのライヴ。曲目は米国の白人黒人の枠を超えた古き良き音楽。Martin ファンが聴けば、Martin の米国趣味の音楽に大衆性が増したように聞こえて、面白いだろうし、Dom Flemons のファンが聴けば、米国庶民の古き良き娯楽音楽に品性が備わったように感じられて、新鮮な印象を持つだろう。米英の個性派が混ざり合って、ある種異種交配的な面白さもある米国の古き大衆音楽の世界だ。2016 作。Fledg'ling)
- *MARRY WATERSON AND DAVID A. JAYCOCK:Two Wolves B
(Waterson ファミリーの Marry の本作は、彼女が追い求めてきた 70 年代ブリティッシュ・フォーク風フォークを極めたあの時代の空気感をピュアに保持した信じられないほど心ときめく音楽。その空気感を演出するのはギタリストの David A. Jaycock の魔法的に美しいアコースティック・ギターの響き。w. Kami Thompson, Neill MacColl, Kate St. John, Simon Edwards。2016 作。One Little Indian)
- *MARRY WATERSON & OLIVER KNIGHT:Hidden A
(Waterson ファミリーの子世代の Marry&Oliver の本作は、Oliver の、まるでギターのアコースティック&エレキ・ギターをフィーチャーした夢模様のブリティッシュ・フォーク・サウンドの中、Marry は彼女ならではの独特な唄の世界を創作している。w. Eliza Carthy, Miranda Sykes, Barry Coope, Jim Boyes, Lester Simpson, etc. 2012 作。Little Indian)
- *CROWS:Time To Rise! B
(Crows は 1977 年から 1987 年まで活動したイングランドを代表するトラッド・グループで、メンバーは Mick Ryan, John Burge, James Patterson, Ralph Jordan の四名。1981 年に“Crows”、1986 年に“No Bones Or Grease”の二枚のアルバムを発表。本作は一枚目から 6 曲、二枚目から 2 曲に加えて、1982 年と 1983 年にラジオ番組のため

に収録した未発表音源から 8 曲を加えた新譜。2016 作。WildGoose)
*JIM CAUSLEY:Forgotten Kingdom G

(Jim Causley の五枚目に当る本作は、4 世紀から 8 世紀にイングランド西南部を支配していたケルト王国ダムノニアを夢想して制作されたもの。w. Jackie Oates, Phil Beer, Steve Knightley, Miranda Sykes, Rex Preston, Phillip Henry, Hannah Martin, James Dumbelton, Seth Lakeman, Steve Tyler, Katy Marchant, Lukas Drinkwater, The Claque, Ninebarrow, Mark Bazeley, Kathryn Roberts, Nick Wyke & Becki Driscoll, Reese Wesson, Chris Hoban & Old Uncle Tom Cobley。2016 作。Hands On Music)

*THE BALLADS OF CHILD MIGRATION B

(副題“Songs For Britain's Child Migrants”。本作はチャイルド・バラッド集ではない。1869 年から 1970 年の間に、約 10 万人の英国人の子どもが親なしで海外に移住したという。その内の約 9 万人がカナダだったという。本作はフォーク/トラッドのミュージシャン達が移民していった子ども達の唄を歌詞作曲し、うたったもの。この企画に賛同したミュージシャンは、Chris While& Julie Matthews {4 曲}, Jez Lowe {4 曲}, John Doyle {1 曲}, Coope Boyes&Simpson {2 曲}, John McCusker {フィドル演奏。1 曲}, Boo Hewerdine {2 曲}, Belinda O'Hooley&Heidi Tidow {2 曲}。通してヴォーカルを中心に据えたアコースティックな音作り。しかもどの唄も親から離れ離れになった子どもの心に寄り添うように優しい。シンガーは次から次に変わるのに、不思議な優しい空気が、通して流れている。ほっこりした気分。w. Andy Cutting, Ian Carr, Michael McGoldric, etc. CD ブック型 CD。2015 作。Delphonic)

*ELLE OSBORNE:It's Not Your Gold Shall Me Entice G

(本作が三枚目の英国の女性 SSW の Elle の新作。彼女の音楽資質は Shirley Collins や Lal Waterson などの英国フォーク/トラッド。面白いことに共演者は Alan Roberts の息子でフォーク・シンガーの Alasdair Roberts やスコットランドのフォーク・ロック・バンドの Trembling Bells の Mike Hastings と Alex Neilson 等のスコットランド勢。そんな組み合わせで生まれた本作は、今日の錬磨された英国トラッドとは一線を画した 60 年代後半から 70 年代初期のブリティッシュ・フォークの肌触りを感じさせる粗いフォーク。2015 作。9th House)

*THE DOVETAIL TRIO:Wing Of Evening G

(聴いていて、ついほほえみが出てしまう Rosie Hood {ヴォーカル}、Jamie Roberts {Gilmore & Roberts の Roberts/ヴォーカル、ギター}、Matt Quinn {コンサーティナ、ヴォーカル} の一姫二太郎のイングランドのトラッド・ユニットの Dovetail Trio の清々しいデビュー作だ。三人の演唱は清々しく爽やかでありながら、イングランドのトラッドのシンギングとダンス音楽の美味なツボを体得しているかのように見事で、さらりと骨抜きにする。イングランドのトラッド界の金の卵。2015 作。Rootbeat)

*ANGE HARDY:Esteesee B

(Ange Hardy の新作は英国のロマン派の詩人サミュエル・テイラー・

コールリッジ {1772 年-1834 年} の詩にインスピレーションを得て
創作されたフォーク・アルバム。ブリティッシュ・トラッド/フォ
ークの真の優美さを表出していて、独自のイングランド版的夢想
浪漫世界を創出していて素晴らしい。w. Steve Knightley, Patsy
Reid 他。P28 のブックレット付。2015 作。Story)

*PETE MORTON: The Land Of Time A

(Pete Morton のようなトラッドとフォークの両要素を保持し、社
会的な唄やラヴ・ソングやウイットの利いた唄などの自作曲を様
々な曲調で自由にうたうフォーク・シンガーが昨今少なくなった
が、久々に聴く Pete Morton の唄は、まるで広い大地に立って、遠
く彼方をみやってうたっているかのように、唄が健やかでたくま
しい。英国フォークの伝統に根ざした「アナログ」な唄の数々だ。
w. Linda Adams, Chris Parkinson, Jon Brindley, Ciaran Algar,
James Budden。2015 作。Fellside)

*ELIZA CARHY・TIM ERIKSEN: Bottle C

(本作は 2013 年の夏から 2015 年の一月の間に、Eliza Carthy と Tim
Eriksen がデュオで行ったライブからの 13 トラック。本作は、副題
“A Game For Two Players”の通り、英米トラッドのゲームなのだ。
Eliza はトラッド・シンガー&フィドラーとして、そのまま。そこ
に Tim がエレキギターをかき鳴らしたり、ギターやバンジョーを
弾いて、渾身のシンギングで対抗する。そのシンギングたるや
Eliza 以上に英国トラッド臭かったりする。二人とも +α のパワ
ーを噴出している。Navigator。2015 作)

*FOLK AWARDS 2010 a

(2010 年 BBC Radio2 のフォーク賞各部門にノミネートされたシンガー/グループ
{Cara Dillon, Show Of Hands, Unthanks, Maukin: Causley, Martin
Simpson, Hannah James&Sam Sweeney, Bellowhead, Jackie Oates,
Lau, John Kirkpatrick, Jon Boden, Megson 他} の 2 枚組 CD。全 22 ト
ラック。2008 作。Proper)

*PETE COE: In Paper Houses (2004 作。Backshift) C

*DAVID ROTHERAY'S "The Life Of Birds" A

(David Rotheray の作曲曲を主にイングランドのトラッド/フォーク系シンガーが
うたうシリーズの第一作目。Eliza Carthy, Bella Hardy, Kathryn
Williams, Alasdair Roberts, Julie Murphy, Jim Causley, Eleanor
McEvoy, Camille O'Sullivan, Jack L, Nat Johnson。全 14 トラック。
2010 年。Proper)

*BROOM BEZZUMS: Winterman C

(Broom Bezzum は Andrew Cadie と Mark Bloomer の二人組による「冬
とクリスマスの伝統曲集」。驚くのは二人の英国トラッド/フォークの気品と気
高さに充ちたヴォーカルとアコースティック・ギターとフィドルのサウンド。英国トラッド
/フォークとしての質の高さは、Spiers&Boden と肩を並べる。しかも大
半の曲で Katie Doherty がヴォーカルで加わっていて、+α の魅力の英
国トラッド/フォークで魅了する。2012 作。Steeplejack Music)

*YOUNG TRADITION: Oberlin 1968 B

(Young Tradition {Peter Bellamy, Royston Wood, Heather Wood} の
1968 年 11 月 17 日、米国の Oberlin College で行われたライブ。イングラ

ドのトラット・ファンなら冷静には聴けない見事なアカペラによるトラット・シンキング・アルバム。三人のシンキングは極めてスティック。そのスティックさが音楽的にイングリッシュ的気品を生み、伝統歌の質をピュアに高めている。Peter Bellamy のシンキングのみならず、Royston も Heather もオーラを放つほどに見事なシンキングを高く貫いている。滅茶苦茶素晴らしい。アカペラによるイングリッシュのトラット・シンキングの原点であり、一つの理想型。全 25 曲。1968/2013 作。Fledg'ling)

- *PAUL DOWNES: The Boatman's Cure B
(Paul Downes を初めて知ったのはフォーク・ロック・バンドの Arizona Smoke Revue だった。彼がレコーディングに関わったアルバムは約 250 枚もあるという。本作はソロ・アルバムとしては五枚目。"Farewell Nancy"等のトラットと Mick Ryan, Harvey Andrews 等のフォーク系 SSW のメンバーが半々の本作は、Paul の人情派? 熟練フォーク・シンガーとしての味わいがじっくり味わえる一枚になっている。w. Maggie Boyle, Jackie Oates, Phil Beer, Keith Kendrick, Gill Redmond。全 12 トラック。2013 作。WildGoose)
- *CYRIL TAWNEY: Man Of Honour B
(1997 年のセット・アルバムがめでたく CD 再発。本作はフォーク・シンガーの Cyril が自作曲 14 曲を 1995 年~1997 年にギターの弾き語りを中心に収録したアルバム。副題を付けるとすれば「酒と女と海」だろうか。この副題だと、ム・ウヱツを思い浮かべそうだが、中身は真逆。Cyril の「酒と女と海」は、暖炉のある暖かな部屋で、昔の思い出を偲ぶ感じで、終始穏やかペース。ゲスト: Chris While。1997 年/2012 年。Talking Elephant)
- *JOHN KIRKPATRICK: The Dance Of The Demon Daffodils A
(2010 年 BBC2 "Folk Awards" の "Musician Of The Year" 入賞作。2009 作。Fledg'ling)
- *THE FLYNN BROTHERS: The Flynn Brothers ¥2500
(Produced by Martin Carthy。推薦文: Davy Graham。1991 作。Annadale)
- *THE YOUNG' UNS: When Our Grandfathers Said No A
(本作が 4 枚目のイングリッシュ 北東部出身の男性ヴォーカル・トリオ。メンバーは Sean Cooney {ヴォーカル}, David Eagle {ヴォーカル、キーボード、アコ}, Michael Hughes {ヴォーカル、ギター}。「今日のフォーク・シーンで、最も人気のある面白い奴らだ」とは Jez Lowe。2012 作。Navigator)
- *PETER BELLAMY: Merlyn's Isle Of Gramarye A
(Rudyard Kipling の本 "Puck of Pooks Hill" と "Rewards And Fairies" からの Rudyard Kipling ソング集第二段。Rudyard の唄をトラットのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンキング 他イングリッシュ産トラット・アルバムの名盤。ゲスト: Nic Jones, Dolly Collins, Dave Arthur, Dik Cadbury, etc. 72/2011 作。Talking Elephant)
- *PETER BELLAMY: Oak, Ash And Thorn A
(Rudyard Kipling の本 "Puck of Pooks Hill" と "Rewards And Fairies" からの Rudyard Kipling ソング集第一段。Rudyard の唄をトラットのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンキング 他イングリッシュ産トラット・アルバムの名盤。ゲスト: Royston Wood, Heather Wood, Barry Dransfield, Robin Dransfield。70/2011 作。Talking Elephant)
- *BRAM TAYLOR: Jokers & Rogues A

(光に照らされた新緑の葉っぱのような清々しい唄だ。本作が10枚目を数え、レーディング・アーティストとして27年のフォーク・シンガーのB. Taylorの唄は、年齢を重ね、逆に若々しい。Dylanの“I Shall Be Released”はアコースティック・ギターとエレキ・ギターを絡ませた伴奏で、70年代フォークっぽくどことなくIain Matthewsっぽい。2012作。Fellside)

*THE GIFT BAND:Live On Tour B
(Norma Waterson, Eliza Carthy, Martin Carthyの親子に Phil Alexander, Aidan Curran, David DonnellyのGift Bandによる2010年のUnion Chapelでのライブ二枚組。Normaの豊富なレパートリーを中心に、トラッドとコンテムポラリー・ソングの垣根なく、母なる柔軟な音楽で聴き手を包み込む。全17トラック。2011作。Scarlet)

*WHEELER STREET:Live B
(Wheeler Streetは、紅一点のSophy Blundellがヴォーカルのフォーク・フェスやライブで人気急上昇中のケトの若者7人組トラッド・バンド。アイルिशのノリと楽しさ、フォーク・ロックの力と醍醐味そしてトラッド・シンキングの清澄さ等、彼らは彼らの柔らかい感性にフィットしたトラッドをあの手この手で若々しく、エネルギッシュに演唱する。Great! 2011作。Stump Nugget)

*HOME SERVICE:Live 1986 A
(メンバーはJohn Tams [リード・ヴォーカル], Howard Evans, Graeme Taylor, Roger Williams, Howard Evans, Steve King, Andy Findow。フォーク・ロック・バンドの横綱“Home Service”の1986年のライブ。場所はケンブリッジ・フォーク・フェスティバル。このライブは素晴らしい。John Tamsのヴォーカルは威風堂々とし、バンドのサウンドは揺るぎがなく重厚。文句の言いようのないHome Serviceらしい怖れ知らずのフォーク・ロックのオンパレード。2011作。Fledgling)

*MIDWINTER ¥6900
(副題“A Celebration Of The Folk Music & Traditions Of Christmas & The Turning Of The Year”。P156の解説本付4枚組ボックスセット。イングランドの著名フォーク&トラッド・シンガー大集合。クリスマス期音楽の集大成。2006作。Free Reed)

*THE GIFT BAND:Live On Tour B
(Norma Waterson, Eliza Carthy, Martin Carthyの親子に Phil Alexander, Aidan Curran, David DonnellyのGift Bandによる2010年のUnion Chapelでのライブ二枚組。Normaの豊富なレパートリーを中心に、トラッドとコンテムポラリー・ソングの垣根なく、母なる柔軟な音楽で聴き手を包み込む。全17トラック。2011作。Scarlet)

*VICKI SWAN & JONNY DYER:Stones On The Ground A
(「フォーク・ソング」というのは石ころのようなものというVicki&Jonnyの本作はイングランドのトラッドとVickiの母親の故郷スウェーデンのトラッドにJohnnyのオリジナル曲を加えた作品。英国調とスウェーデン調の見事なトラッド・アルバムだ。2011作。WildGoose)

*VICKI SWAN・JONNY DYER:Gleowien (2009作。WildGoose) A

*ELIZA CARTHY:Neptune B
(フォーク・スタイルのアカペラからミュージック・ホールの音楽、醍醐味あるフォーク・ロック、ユーモラスな音楽、エレガントな音楽、トピカルな音楽、ノスタルジックな音楽などまるで色んな音楽が飛び出す唄のヴァリエーションを観るような印象。

そんな音楽を Eliza は各唄の主人公になり、演技するように意気揚々とうたっている。w. Phil Alexander, Willy Molleson, Bethany Porter, Emma Smith, Heather MacLeod。2011 作。Hem Hem)

- *TOM McCONVILLE: Tommy On The Road B
(ヴェテラン・シンガーでフィドル奏者の T. McConville の本作はノサンバーランドとスコットランドの音楽を中心にアイリッシュを加えた唄とフィドルのアルバム。唄とフィドルはほぼ半々で、唄物は Ewan MacColl 作“Jamie Foyers”や Benny Gallagher 作“Stay Young”や Steve Tilston 作“Slip Jigs and Reels”等、Tom の温厚なヴォーカルが心に沁みるちよっぴり懐古趣味的で滋味豊かな唄ばかり。w. Chris Newman, Aaron Jones, Shona Kipling, Damian O' Kane, David Newey。2010 作。Tomcat Music)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Up From The Deep C
(二人のイングランド・スタイルの音楽は新たな生命力を持ち、すこぶる魅力的なフォーク&トラッドを創作している。2010 作。GR!)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Shadows & Half Light B
(Jamie の理知的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)
- *TYDE: Tyde B
(注目の北イングランドの若きトリオ。ムバーは紅一点のシンガーでフィドル奏者の Heather Gessey、ギター奏者の Seth Tinsley そしてアコ奏者の Andrew Waite。三人は若いながら、アイリッシュ、スコティッシュ、ノサンブリアンなどの曲をヴェテラン・セッション・ミュージシャン並に演奏し、驚かせる一方で、紅一点の Heather はノサンブリアの伝統音楽への傾倒が色濃いフィドルの演奏とシンキングで花を添えている。2010 作。Mrs Carsy)
- *MEGSON: The Longshot A
(イングランドのベスト・フォーク・デュオとして評判の Debbie&Stu Hanna の二人組“Megson”の本作は新旧の労働者の暮らしにまつわる唄を集めたアルバムで伝統歌と自作曲がほぼ半々。特筆すべきはイングランドの薫りに充ちた二人のヴォーカル・ハーモニーの見事さ。2010 作。EDJ)
- *MEGSON: Take Yourself a Wife A
(イングランド北東部の伝統音楽に根ざしたフォーク・デュオの 2 枚目。2008 作。EDJ)
- *MICK RYAN & PAUL DOWNES: Away In The West A
(Mick Ryan との付き合いも Mick Ryan&John Burge からだからもう 32 年。Mick の力強く、かつ伸びやかなシンキングは今が旬と思えるほど勢いがある。その勢いは彼のまろやかなシンキングとともに美しい唄をさらに美しい唄にもしている。これぞトラッド・シンキングの見本と言いたいほどだ。聴き惚れてばかり。w. Jackie Oates, Paul Hutchinson。全 14 曲。2010 作。WildGoose)
- *JOHN JONES: Rising Road C
(Oysterband のヴォーカルの J. Jones の徹底してイングランド気質の気骨あるソロ。w. Seth Lakeman, Benji Kirkpatrick, Ian Kearny, Alan Prosser, etc. 2009 作。トイWestpark)
- *LIZZIE NUNNERY: Company Of Ghosts A
(2008 年 BBCラジオの“Best Newcomer”賞優勝の若き女性 SSW のファースト・

アルバム。Lizzie の唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる。独特なのは本人とフリューターの Vidar の二人ともが爪弾くウクレレとギターで、木漏れ日の心地よさというか、肌触りのよい手作りな響きが何とも何とも快い。2010 作。Fellside)

- *CHRIS WOOD:Handmade Life B
(現在 Imagined Village で活動中で、イングランドを代表するトラッド・シンガーに成長した C. Wood の 2010 作。珠玉のブリティッシュ・トラッド / フォーク・アルバム。2010 作。RUF)
- *PETE MORTON・ROGER WILSON・SIMON EDWARDS B
:Urban Folk Vol. 2
(Urban Folk Vol. 1 とセットの 2 枚組。全 24 曲。97 作。Harbourtown)
- *IAN KING:Panic Grass & Fever Few B
(Shirley Collins が「This is English folk music for the 21st century!」と言ったという期待の新星。“Adieu To Old England”, “Death and The Lady”他全 13 曲。2010 作。Fledgling)
- *DAMIEN BARBER・MIKE WILSON:Under The Influence A
(2010 年 BBC2 “Folk Awards” の “Best Duo” 入賞。70 年代の英国トラッド・ファンへの推薦盤。Damien と Mike は Damien が奏でるコンサーティーナやギターが英国トラッドの土臭さを立てる中、Peter Bellamy や Dick Gaughan や Ewan MacColl 等のアルバムで覚えた唄を当時の彼らのシンキングの気概をそのままエレクトリックとして、奮起して毅然とシンキングする。ジャケットは 70 年代の LP ジャケット風。2009 作。Demon Barber Sounds)
- *ROGER WATSON:Past And Present A
(Muckram Wakes、New Victory Band を経て、トラッド・シンガー兼ジャズ奏者としてソビエト連邦の道を歩むウクライナの R. Watson の本作は、何とも心安らぐトラッド・シンキングとダンスの快樂さを保持した心身を芯からほぐしてくれる唄と音楽。滋味豊かなイングランドの香り漂う唄と音楽。w. Jackie Oates&Tim Walker。2009 作。WildGoose)
- *BELSHAZZAR'S FEAST:Frost Bites A
(2010 年 BBC2 “Folk Awards” の “Best Duo” 入賞。イングランドのトラッド界の二匹の若獅子 Paul Sartin {ヴォーカル、フィドル、オボエ} と Tom Paul Hutchinson {アコ} のによるクリスマス音楽。2009 作。WildGoose)
- *BELSHAZZAR'S FEAST:The Food Of Love B
(スタジオ録音とライブ録音の 2 枚組。本作は正に極上のイングランドのダンス音楽とトラッド・シンキング・アルバム。二人が奏でる音楽はイングランドのダンス曲の風合いをキープしつつ、他のモリス・ダンス・タイプの有名どころとは気高さと優雅さで上を行っている。2008 作。WildGoose)
- *DARWIN SONG PROJECT - Shrewsbury 2009 B
(フォーク・フェスティバルで企画されたスコットランド、イングランド、アメリカのトラッド・シンガーや SSW によるユニークなコラボレーション。ライブ・アルバム。メンバーは 8 名。Chris Wood, Karine Polwart, Jez Lowe, Emily Smith, Krisa Detor, Rachael McShane, Mark Erelli。一人から四人のグループで、一曲一曲をコラボする。最後は 8 人全員でシンキングの競演で幕。全 17 曲。2009 作。Shrewsbury Folk Festival)
- *JON BODEN:Songs From The Floodplain B

(2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Singer Of The Year”入賞。P34の写真・歌詞ブックレットの限定盤。本作はトラッドのメロディを借用した自作の唄が中心で、ギター、コンサーティーナ、メロディオン、ドラムス、バグパイプなどの英国トラッド臭わき立つ中、持ち前の威風堂々たるシンキングで釘付けにする。徹頭徹尾 Jon らしさが煮詰められたイングランドの気品と香り立つ傑作。2009作。Navigator)

*BELLOWHEAD: Matachin

B

(2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Group”入賞。P32のブックレット付デラックス・エディション限定盤を販売。イングランドのトラッド・シーンの若獅子達11名によるスーパー・トラッド・バンドの2枚目。Jon Boden&John SpiersとFaustusのBenji KirkpatrickとPaul Sartinを中心に外堀を管楽器やバグパイプやパーカッションで固めたお祭りバンド。イングランドのトラッドの可能性を大きく押し広げる頼もしい演唱の数々だ。2008作。Navigator)

*SPIERS & BODEN: Vagabond

B

(Spiers&Bodenの本作は一瞬たりとも耳が話せないまさに感電死級のイングリッシュ・スタイルのトラッド音楽でモリス音楽を含めたかれこれ40年のイングランドのトラッド音楽の金字塔的傑作。蛇足ながら、6トラック目で“Mary Anne”をうたってるのだが、実はこの唄はSSWのShep Cookeが彼の2枚目でうたっていて、聴いていると私の頭の中でShepのうたが重なって流れてくる。2008作。Navigator)

*UISCEDWR: Fish Cat Door

C

(オリジナル・メンバーのAnna Esslemont {ヴォーカル、フィドル}&Cormac Byrne {ハープ、パーカッション}にKaren Tweed [アコ]とJames Hickman {ギター}が加わったUiscedwrの2009作。フィドルとアコとハープとギターの妙技が冴えて、最高にグルーヴィーなダンス曲を繰り広げる。数曲で聴けるAnna嬢のヴォーカルは純情無垢な可愛らしさ。2009作。Yukka)

*FOLK FOR MS “Generosity”

A

(20年の活動暦というFfMS [Folk For MS] 支援のための編集CD。Jez Lowe, Barry Dransfield, Pete Coe, Dave Burland, Harvey Andrews, Roger Watson, Tom & Barbara Brown, Askew Sisters, Johnny Coppin, Vin Garbutt, Huw&Tony Williams, Cosmotheke, Roy Bailey & John Kirkpatrick, Artisan, Cockersdale, Mike Nicholson 他提供による全20トラック。2009作。WildGoose)

*MAWKIN・CAUSLEY: The Awkward Recruit

B

(2010年BBC2“Folk Awards”の“Best Group”入賞。James and David Delarre, Danny Crump, Alex Goldsmithの4人組Mawkinに、今イングランドの若手トラッド・シンガーの中で、今最も伝統歌の心がうたえると評判のJim Causley {Under One Sky/Devil's Interval} が加わった、今最も華のあるトラッド・グループ。Jon&John 的なイングリッシュ・スタイルのトラッドのコアに向かうトラッドで歓喜させ、ヴォーカルを中心にグループとして多彩なイングリッシュ・スタイルのトラッドで心遊ばせる。今が旬。2009作。Navigator)

*MOULTON MORRIS MEN: Where The Pavement Ends

A

(1972年に結成されたモリス・ダンス・バンドの1979年制作のアルバム [Dave Pegg&Simon Nicol のプロデュース] に4曲のボーナス・トラック加えて再発。全20トラック。当時Melody Maker誌のフォーク・チャート1位。メンバーはSimon Care,

Gareth Turner, Guy Fletcher, Dave Jolly, Gareth Warren で、その後リス音楽の分野、特に革新的分野で大活躍するツモノ揃い。ライヴ感たっぷり、リス音楽の楽しさと醍醐味をたっぷり聴かせるリス音楽の名作。2009 作。Talking Elephant)

- *ANDY MAY:Happy Hours A
(Jez Lowe Band のメンバーで若手ノックアウト・バンドの筆頭格の A. May の本作はまさに空を羽ばたく勢い。一曲一曲に彼の思い入れが込められた様々な表情のバンド演奏が楽しめる。2009 作。Fellside)
- *JIM MORAY:Jim Morray A
(2003 年作のデビュー作は「Liege&Lief」以来の最重要作」と評価され話題を呼んだが、前作同様オタク趣味に徹した Jim にしか創作出来ない Jim 印の耽美なイングランドのトラッドの世界。“全てが夢の中”。病み付き保証。2006 作。Niblik)
- *THE NAVVY'S WIFE D
(2 枚組。「人夫の妻」と題された本作は、アイルランド系イギリス人トラッド・シンガーの Mick Ryan によるフォーク・ドラマ。イギリスで鉄道や運河や道路の建設に携わったアイルランド移民の苦難や悲哀や希望や楽しみや喜びをアイリッシュやイングリッシュ・トラッドのスタイルでうたい、音楽を付けた大作。本作に参加したシンガーは M. Ryan, Jackie Oates, Paul Downes, Judy Dunlop, Heather Bradford, Roger Watson。2008 作。WildGoose)
- *THE MARTIN GREEN MACHINE "First Sighting" B
(Lau のアコ奏者 Martin Green のやりたい放題の実験音楽。ポータブルな彼の音楽性からある程度想像していたが、やはりジャンル分け困難な実験的でユーモラスでお遊び感覚のクロスオーバー音楽。色彩感豊かで、遊園地音楽とも言いたい音楽。彼はほつま遊び好きやな。子どものままの感性の音楽家。w. Inge Thomson, Barnaby Stradling, Tom Cook, etc. 2009 作。Navigator)
- *GRAHAM & SAM PIRT:Dance Ti' Thee Daddy A
(母親の膝の上で覚えたという伝承歌などのノックアウト・バンドのトラッドやそこで出逢ったトラッドなどを中心にした唄や音楽を父息子の親子でコンサート&オーディオの伴奏で演唱したもの。シンキングは驚くほど丁寧で穏やか。時の流れから隔離されたようなイングランド東北地方の穏やかなトラッドの世界だ。2008 作。Fellside)
- *SIMON CARE:Oh What A Caper A
(イングランドのダンス音楽シーンで、イングランドを代表する百戦錬磨のモード・イコ奏者の編集 CD。Whapweasel, The Lark Rise Bnd, The Albion Christmas Band, Edward 11, The Morris On Band など全 15トラック。2008 作。Talking Elephant)
- *RUBUS:Rubas A
(Rubus は Emily Portman 嬢がリード・ヴォーカルのイングランドの若きトラッド・バンド。11 曲中 10 曲が伝統歌。Emily のシンキングは往年のイングランド女性のトラッド・シンガー・タイプの高質で、凛として孤独感を漂わせる。音楽的には 70 年代風で、どこか Pentangle 的というか、雑多な音楽性を持っていて、独特な暗さと土臭さのあるイングランドのトラッド・サウンドを体現している。2008 作。WildGoose)
- *ELIZA CARTHY:Dreams Of Breathing Underwater A

- (ライヴの空想的な夢音楽。w. Jon Boden, John Spiers, Martin Green, Eddie Reader, etc. 2008 作。Topic)
- *FAUSTUS:Faustus B
(Bellowhead の Benji Kirkpatrick {ヴァーカル、ギター、フズーキ} & Paul Sartin {ヴァーカル、フィドル、オボエ} に Eliza Carthy の相棒で Waterson Carthy でイングランドのベスト・ミュージック・アワードの Saul Rose から成る新生 Faustus の 2008 作。Navigator)
- *BENJI KIRKPATRICK:Boomerang B
(John Kirkpatrick の息子で Bellowhead, Faustus の Benji のソロ。1 曲を除き全曲 Benji のオリジナルで占められた本作は Bellowhead でのパートをそのまま自身のソロに注入したような気骨あるブリテン島調 SSW アルバム。John Kirkpatrick & Sue Harris のご両親もバックアップ。2008 作。Navigator)
- *BENJI KIRKPATRICK:Half A Fruit Pie (2004 作。Fellside) A
- *THE MAERLOCK:Sofa A
(Royal Northern College Of Music で出会って結成された女性 2 名と男性 3 名の若きトラッド・グループのデビュー作。Lau の Aidan O'Rourke が「独創的で力強いアンサンブル・サウンド」と評。2008 作。Fellside)
- *LEON ROSSELSON:Turning Silence Into Song A
(Leon 氏の社会風刺や機知に飛んだ唄は老いてもなおかくしゃくとしてハツラツ。そんな自由な唄を Martin Carthy がご機嫌なギターで踊るようにバックアップする。聴き手を笑わせながら、社会の不条理を説く Leon のようなシンガーはそうはいない。w. Frankie Armstrong, Miranda Sykes, Robb Johnson, Jody Stecher, etc. 2004 作。Fuse)
- *COOPE, BOYES AND SIMPSON:Triple Echo C
(副題“Songs Collected by Ralph Vaughan Williams, George Butterworth and Percy Grainger”。約 100 年前のフォークソングの収集家の 3 名のコレクションから 17 曲をアカラ・トリオの CB&S がイングランド・スタイルのシンキングの薫り高く毅然とうたったもの。“Bushes And Briars”や“Lovely On The Water”ほか。2005 作。No Masters)
- *ARTISAN:Searching For Yorladale C
(副題“Songs Of The Yorkshire Dales From The Words Of Yorkshire Poet, Dorothy Una Ratcliffe, With Music By Brian Bedford”。1988 作。Bedspring Music)
- *ARTISAN:Live C
(2002 年アメリカの WFMT Radio でのライヴ。30トラック。2005 作。Bedspring Music)
- *VIVIEN ELLIS:The Dawn Songs A
(中世音楽とトラッドの両方に造詣が深い Vivien は Alva 時代同様本作でもスコットランド民謡、アイルランド民謡、中世音楽、アラビア民謡、宗教歌に加えてカンパ・スタイルの 15 世紀イギリス起源の唄やブルガリア民謡等を極力素朴な美しさを追い求めたかのような凜とした清涼なヴォイスとブルガリア民謡等その民謡固有の味わいを強くしたヴォイスとで唄の世界を旅するように唄う。2006 作。Beautiful Jo)
- *MAGPIE LANE:Knock At The Knocker, Ring At The Bell A
(副題“Carols, Songs & Tunes For The Christmas Season”。Andy

- Turner, Ian Giles, Marguerite Hutchinson, Mat Green, Sophie Polhill に Benji Kirkpatrick に代わり新加入のギター&ベース&ヴォーカルの Jon Fletcher から成るイングリッシュ・トラッド・シンキング & ダンス・バンドの Magpie によるイングランド産トラッド・アルバムとしてまたクリスマス期の唄と音楽のアルバムとして金字塔的名盤。2007 作。Beautiful Jo)
- *MAGPIE LANE: Six For Gold (2002 作。Beautiful Jo) B
- *KATHRYN TICKELL BAND: Instrumental C
(Kathryn のノサンパリアン・スモール・イプスとフィドルが滅茶苦茶見事な飛びつきりの 2007 作。Band としての前作も素晴らしかったが、本作もハイプの鮮やかさと表現力の豊かさと多彩さに満ちた音楽に心躍らせる。2007 作。Park)
- *KATHRYN TICKELL + CORRINA HEWAT: The Sky Didn't Fall C
(ノサンパリアン・スモール・イプス&フィドルの K. Tickell と先進的ハープの Corrina のデュエットはスコットランドとノサンパリアンの伝統回帰かつ女性的優美さに包まれた音楽。二人は思い出の曲や馴染み深い曲を慈しむように演奏し、唄う。2006 作。Park)
- *THE RADIO BALLADS "The Song of Steel" B
(1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプロデュースで BBC ラジオで放送された "Radio Ballad" シリーズの 2006 年版 "Radio Ballad"。副題 "Stories Of The Men And Women Who Worked In The Steel Industry In The Don Valley"。2007 作。Gott Discs)
- *THE RADIO BALLADS "Thirty Years Of Conflict" B
(1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプロデュースで BBC ラジオで放送された "Radio Ballad" シリーズの 2006 年版 "Radio Ballad"。副題 "Stories From Three Decades Of Sectarian Conflict In Northern Ireland"。Tommy Sands, Karine Polwart, Julie Mathews, Jez Lowe 等による 10 曲。2006 作。Gott Discs)
- *THE RADIO BALLADS "The Ballad Of The Big Ships" B
(1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプロデュースで BBC ラジオで放送された "Radio Ballad" シリーズの 2006 年版 "Radio Ballad"。副題 "Stories From The Shipbuilders Of The Tyne And The Clyde"。John Tams, Karine Polwart, Jez Lowe 等による 14 曲。2006 作。Gott Discs)
- *NIC JONES: Penguin Eggs (不滅名盤。80 作。Topic) A
- *NIC JONES: Game Set Match A
(Martin Carthy, Shirley Collins, Martin Simpson 等の音源提供で完成した N. Jones の 70 年代後半のライヴを収録した CD。全 15 曲。2006 作。Topic)
- *BOB FOX: The Blast (2006 作。Topic) A
- *BOB FOX: Dreams Never Leave You A
(ヴェテラン・トラッド・シンガー、B. Fox の本作は、何と Fairport がバックを固めた瑞々しいもの。Bob 自身 Fairport とのりのよい付き合いを楽しむかのように伸びやかな唄を披露する。2000 作。Woodworm)
- *SIMON MAYOR & HILARY JAMES: Duos B
(魅惑の個性的なトラッド・シンガー、Hilary とマンダリン音楽の道を探求する Simon のそれぞれの魅力が半々収められたライヴ集。録音は 1999~

- 2000年。2001作。Acoustics)
- *SOD'S OPERA: Come On Lads... B
(副題" Canteen Songs Of World War Two"。95作。Beautiful Jo)
- *ROUND CAPE HORN A
(副題" Traditional Songs Of Sailors, Ships And The Sea"。Ewan MacColl, Frankie Armstrong, A. L. Lloyd, Peter Bellamy, Cyril Twaney, Watersons, Mike Waterson, Roy Harris, Louis Killen。98作。Topic)
- *JOHN KIRKPATRICK: Carolling&Crumpets C
(J. Kirpatrick の各種ジ ャパ ラの奏き語りクリスマス・アルバム。2006作。Fledg' ling)
- *JOHN KIRKPATRICK・CHRIS PARKINSON:
The Sultans Of Squeeze B
(ジ ャパ ラの巨人お二人によるジ ャパ ラ二重奏パ ーティー! 2005作。Fledg' ling)
- *JOHN KIRKPATRICK: Orlando's Return B
(副題" 53 English Traditional Tunes"。メロデー イオン、コンサーティーナ、アコーデ イオンによるダンス曲集。息子 Benji のギター&フ ァス キでサポ ート。2000/2003作。Molly)
- *JOHN KIRKPATRICK: Carrick's Delight B
(副題" 48 English Traditional Tunes"。メロデー イオン、コンサーティーナ、アコーデ イオンによるダンス曲集。息子 Benji のギター&フ ァス キでサポ ート。2000/2003作。Molly)
- *GRAHAM METCALFE
: Songs From Yorkshire And Other Civilisations A
(1996年作が CD 再発。Dave Burland の名作" The Dalesman's Litany" {偶然にも1曲目で" Dalesman's..." を取り上げているが} を想起させる見事な無伴奏トラッド・シンギングの世界だ。正にトラッド・シンギングの真髄。全14曲。96/2005作。WildGoose)
- *ABBIE LATHE: Avebury (2003作。Park) C
- *SHINING BRIGHT A
("The Songs Of Lal&Mike Waterson"。Performed by Maddy Prior, Norma Waterson, Eliza Carthy, Richard Thompson, Linda&Teddy Thompson, Blue Murder, Dick Gaughan, Helen Watson, Billy Bragg, Martin Carthy, Christy Moore, Christine Collister&Oliver Knight, etc. 2002作。Topic)
- *ALONG THE COALY TYNE "Old And New Northumbrian Songs" A
(全22曲。Louis Killen, Johnny Handle, Tom Gilfellon, Colin Ross, Alistair Anderson。98作。Topic)
- *LYRA CELTICA: Lyra Celtica C
(ノ ーサンバ ーランド のトリオ。ムバ ーは元 JSD Band のフイト ーラの Chuck Fleming に" Young Traditional Musician Of The Year" 賞受賞者の名アコ奏者の Lynn Tocker にバ ヲン他名打楽器奏者の Frank McGuire。Lyra の緩急自在なアコを要に Chuck と Frank がかぶさるスタイルでノ ーサンバ ーランド、アイルランド、スコットランド のトラッド を硬軟織り交ぜて楽しませる。2005作。Lyra Celtica)

- *JON LOOMES: Fearful Symmetry A
 (若きトラッド・シンガーでギター奏者の Jon はイングランドのトラッド・ソングとダンスの伝統をばっちりキープした生え抜き。音楽性とギターのスタイルは多くの部分で Martin Carthy と重なるが若い分、勢いがある。w. Paul Scourfield {メロディオン}, Michael Beeke {リコーダー、イングリッシュ・ハープス}, Philip G. Martin {ハーモニカ・ギター}。2005 作。Fellside)
- *CROSS CURRENT: Momentum B
 (北イングランドからフレッシュ・デビューの女性3名と男性2名 {出身地はイングランド、ノースハンプシャー、アイルランド} の若き5人組。ハンジュー、ギター、ブザーキ、フルト、フィドル、ヴァイオリンによる演奏はイングランド、ノースハンプシャー、スコットランド、アイルランドの音楽がクロスしたフレッシュでグルーブ感ある音楽。音楽の質も完成度も高い。加えて男女のシンキングも気高く清楚で模範的。2005 作。CrossCurrent)
- *JOLLY JACK&FRIENDS: Rolling Down To Old Maui A
 (Steve Turner, Richard Grainger, Barry Skinner, Linda Adams, Patti Reid 他。トラッド・ヴォーカル・グループ。99 作。Fellside)
- *TICKLED PINK: Terpsichore Polyhymnia A
 (Simon Care, Guy Fletcher, Bob Kay, Trevor Landen, Gerald Claridge, Mark Hutchinson のラインナップの最強のフォーク・ロック・バンド。2005 作。Talking Elephant)
- *WHAPWEASEL: Skirl Naked B
 (98 年作の1枚目。5人組で Dave Ainsley のメロディオンを中心にこじんまりとまとまったエレクトリック・カントリー・ダンス。3枚目のショック後聴くと初々しく端正な印象。Old Swan と Tiger Moth の中間的。Produced by Rick Kemp。Whapweasel)
- *WHAPWEASEL: Burn B
 (サクスの Fiona と Stuart が加入し7人組になった Whapweasel の限りなく3枚目に近い2枚目。何といってもアコが抜群! Produced by Rick Kemp。2000 作。Whapweasel)
- *WHAPWEASEL: Relentless B
 (英国各地のフォーク・フェスで大人気の8人組エレクトリック・カントリー・ダンス・バンドの3枚目。2003 作。Whapweasel)
- *JACQUI McSHEE'S PENTANGLE: Passe Avant C
 (メンバーは Jacqui McShee {ヴォーカル}, Gerry Conway {ドラムス}, Spencer Cozens {キーボード}, Alan Thomson {ベース}, Jerry Underwood {サクス}。ゲスト: John Giblyn, Miles Bould。99 作。Park)
- *ED RENNIE: Narrative A
 (一人ギター、シタールを爪弾き唄うトラッドの数々はとても自然。唄によっては Martin Carthy を想起させる味わいのものもあるが、Ed のシンキングには暖炉の温もりのようなものが感じられる。いい人のいい音楽だ。2004 作。Fellside)
- *HEKETY: Furze Cat A
 (あの Crucible のメンバー4名のうち3名がメンバーのイングリッシュ・ダンス・バンドの Hekety のイングランド各地の勢いあるダンス曲のオンパレード。凄くカッコいい。2004 作。WildGoose)

- *WATERSON-CARTHY:Holy Heathens And The Old Green Man A
 (クリスマス期のキャルや伝承歌を中心に選曲された Norma&Eliza
 Watersons, Martin Garthy, Tim Van Eyken の Waterson:Garthy のアル
 バム。ヴォーカルグループ "Devil's Interval" をゲストに迎え、めでたい日
 の健やかな合唱を中心にした Watersons 家の伝統回帰のシンキング・
 アルバム。2006 作。Topic)
- *NORMA WATERSON:Norma Waterson A
 (w. Eliza&Martin Garthy, Richard Thompson, Danny Thompson,
 Roger Swallow。96 作。Hannibal)
- *MARTIN CARTHY AND DAVE SWARBRICK
 :Both Ears And The Tail A
 (ご存知 1966 年 Nottingham の Folkus Folk Club でのライブ。Swarb が
 Fairport に加入する 69 年までの 3 年間 Martin&Dave で活動。ほとん
 どのアルバムは Martin の初期のアルバムに収録されてはいるが、ここ
 では全曲編曲され直された形で即興性高く演奏されていて、臨場感
 抜群。2001 作。Gadfly)
- *WATERSONS:The Definitive Collection ¥1880
 (過去 30 年の Topic 収録の音盤からの 19 曲入編集 CD。2003 作。
 Highpoint)
- *ELIZA CARTHY&NANCY KERR:Shape Of Scrape B
 (今や伝説の Eliza&Nancy による 2nd。95 作。Mrs. Casey)
- *STEELEYE SPAN:Hark!The Village Wait(70 作。Shanachie) A
- *STEELEYE SPAN:Parcel Of Rogues(73 作。BGO) C
- *STEELEYE SPAN:Storm Force Ten(リマスター。77 作。BGO) C
- *STEELEYE SPAN:Sail On Silver B
 (80 作。3 曲のボーナス・トラック{96 年のライブ 2 曲と 97 年のライブ 1 曲}付。
 Park)
- *STEELEYE SPAN:The Lark In The Morning A
 (初期 Steeleye のアルバムからの 33 曲入編集 CD。2 枚組。Sanctuary)
- *STEELEYE SPAN:Individually & Collectively A
 (Steeleye, Martin Garthy, Tim Hart, Maddy Prior の音源 {1971&
 1972 年}からの編集盤。全 12 曲。2000 作。Edsel)
- *MADDY PRIOR:Changing Winds(リマスター。78 作。BGO) C
- *MADDY PRIOR&JUNE TABOR:Silly Sisters a
 (宝物。76 作。Shanachie)
- *JUNE TABOR:A Cut Above(80 作。with Martin Simpson。Topic)a
- *JUNE TABOR:A Quiet Eye(99 作。Topic) a
- *TONY ROSE:Under The Greenwood Tree C
 (デジタル・リマスター-CD-R にて復刻。今聴いても見本のような素 晴らしき
 英国トラッドに酔うばかり。71/2004 作。Leader)
- *PETER BELLAMY:Wake The Vaulted Echoes ¥2980
 (マルチメディア機能付 3 枚組 CD。57 曲中 16 曲が未発表曲で、16 曲がレア曲。
 故 Peter Bellamy のあの魂のこもった心揺さぶられるシンキングが蘇
 る。マルチメディアでは、ライブ・ビデオにインタビュー、おしゃべり、レクチャー等様々
 な角度から P. Bellamy が捧げる。20 世紀の大作。99 作。Free Reed)
- *THE HUSH:Dark To The Sky C

- (Hedgehog Pie の Bob Fox と Jed Grimes を中心に結成された北イングランドのフォーク・グループ。2002 作。MWM)
- *SIMON HAWORTH: Taking Routes A
 (心が真っ直ぐな純良フォーク&トラッド・シンガーの S. Haworth の Fellside からの 2 枚目。北イングランドの香り漂うフォーク~トラッド・サウンドと印象にくっきりと残る美しい唄は深呼吸したいほど。w. Stewart Hardy {フィドルが良く唄う}, Steve Lawrence, Andy May {ノースブリアン・パイプ いいなあ}, Terry Haworth, Rachel Unthank。2003 作。Fellside)
- *ANCIENT BEATBOX: Ancient Beatbox ¥1500
 (Paul James&Nigel Eaton の実験的空想音楽。ゲスト: Sheila Chandra。89 作。Cooking Vinyl)
- *IAN CARR・KAREN TWEED: Fyace A
 (スクワッフの Karen と Ian のデュエット・アルバム。アコギターのお遊び、楽しい会話そしてダンス。97 作。Compass)
- *TWEED&CUTTING: One Roof Under A
 (Poozies~Swap の Karen Tweed と Blowzabella~Wood&Cutting~Fernhill の Andy Cutting の両名アコ奏者によるデュエット・アルバム。ゲスト: Ian Carr。2002 作。Fasco)
- *WOOD・WILSON・CARTHY A
 (Chris Wood, Roger Wilson, Martin Carthy のお三方による気概あふれたイングリッシュ・トラッド・アルバムの傑作。98 作。RUF)
- *PAUL JAMES・MARK HAWKINS: Horse A
 (元 Blowzabella の P. James {サクソ、バグパイプ、フルト他} とキーボード & プログラミング 他 の M. Hawkins の本作はハイクとイングランドのダンス音楽やアイルランドのゲールック・ソング やアラブ やインド 音楽等異質な音楽が同じ鍋で料理されたような異種交配音楽。w. Nigel Eaton, Luke Daniels, Sheila Chandra, Eleanor Shanley, etc. 2001 作。イタリヤFolkClub Ethnosuoni)
- *1651: Cast A Bell A
 (元 Pyewackett で June Tabor の音楽アドバイザー-Mark Emerson の企画 {プレイフォードの“English Dancing Master”の曲の新たな蘇生} に Andy Cutting {アコ} と Tim Harries {タブルベース} の敏腕プレイヤーが協力したもの。素晴らしきプレイフォードの世界。2001 作。Beautiful Jo)
- *BRIAN PETERS&GORDON TYRRALL: The Moving Moon B
 (イングランドを代表するトラッド・シンガー&各種ジヤハラ奏者 B. Peters とトラッド・シンガー&ギター奏者 G. Tyrrall のイングリッシュ・トラッドをベースにスコティッシュやアイルランドを盛り込んだ自由で風通しのよい、それできりっと英国的気品漂う最高のデュオ・アルバム。全 15 曲。2000 作。Gaho Music)
- *BRIAN PETERS: The Beast In The Box ¥1500
 (メロディオン&コンサティーナ奏者としても名高い B. Peters の軽快ジヤハラが弾む爽快イングリッシュ・ダンス音楽の洪水の中にきりっといかにも Brianらしい英国的なトラッド・シンギングを散りばめた良質の英国トラッド・アルバム。w. Nancy Kerr, Gordon Tyrrall, Dave Pope, Jenny Coxon。98 作。Pugwash)
- *GORDON TYRRALL: So I've Heard ¥1500
 (英国トラッドの旨み漂う G. Tyrrall の 2000 年作。イングランドのトラッドのほ

か本作ではアイルランドのトラッドも数曲取り上げているが、イングランド的
端正なシンギングと栄え抜きのギターは、格別な味わいがある。全17曲。
2000作。Gaho Music)

- *HARRY COX: The Bonny Labouring Boy D
(副題“Traditional Songs&Tunes from a Norfolk from Worker”。
ノフォークの偉大なトラッド・シンガーの45年から70年の未発表曲集。2枚組。
P60の解説書付。英国民衆歌の遺産。2000作。Topic)
- *THE MUSIC OF WILLIAM KIMBER B
(20世紀を代表するイングランドのコンサート奏者&モリス・ダンサーW. Kimber
{1872-1961}の未発表曲を多数含む32曲入マルチメディア機能付編集CD。
2冊の解説書付でマルチメディアには45枚の写真とフィルムやイラスト等多数が
収録されている。99作。EFDSS)
- *WALTER PARDON: A World Without Horses A
(イングランドを代表するトラッド・シンガーの一人。74-80年にW. Pardonの
自宅で録音されたもので、イングランドの有名トラッド曲を多く含む全
20曲。詳細解説付。2000作。Topic)
- *GRAHAM&EILEEN PRATT: Borders Of The Ocean A
(元Regal SlipのGraham&Eileen夫妻の97作。Eileenは、イングランド
のみならずアイルランドやスコットランドのバラッドを胸のすくような美声
で酔わせ、唄の世界へと運ぶ。97作。Gail)
- *THE HIGH LEVEL RANTERS: Gateshead Revisited a
(CD-R。90作。メンバーはJohnny Handle, Colin Ross, Jim Hallの3名。こ
こでのHLRの唄と演奏は、より大衆的なもの。ノサンバーランド・スモール・パ
ブの心に響く曲やコミカルな唄など、より北イングランドの人々の心を
豊かにするもの。フォーク・ミュージックの原点。90/99作。Common Ground)